

令和5年度

調査・研究協力園事業〔幼児教育〕

実践事例集

南風原町立津嘉山幼稚園

指導講師：沖縄女子短期大学 名渡山よし乃



南部広域行政組合 島尻教育研究所

〒901-0401 沖縄県島尻郡八重瀬町字東風平965番地
南部総合福祉センター内2F TEL 098-998-9561 FAX 098-998-9420
E-mail info-simaken@nanbukouiki-okinawa.jp
U R L <http://www.nanbukouiki-okinawa.jp>

令和5年度

研究集録

研究主題

自立心を育むための環境構成と援助の工夫

～友達との関わりを通して～

つかざんまつり
楽しかったよ♪



年長さんお面作り
上手だなあ！
かっこいい♪



今日は落ち葉
でうさぎを
作るぞ♪



ドッジボー
ルのルール
みんなで確
認しよう！

南風原町立津嘉山幼稚園

南風原町字津嘉山684番地

電話 (098) 889-4559

目次

1 研究の概要

- (1) 研究主題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- (2) 主題設定の理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- (3) 研究の視点・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- (4) 研究の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- (5) 研究の全体構想図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- (6) 研究の組織図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- (7) 研究の方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- (8) 研究の計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- (9) 研究の経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

2 具体的な取り組み

- (1) 理論研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
- (2) ワークショップによる実態把握・・・・・・・・・・・・ 6
- (3) 実態調査アンケート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
- (4) 週案の工夫・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
- (5) 自立心を育むための環境構成の工夫・・・・・・・・ 7～8
- (6) 園内公開保育・保育研究会・・・・・・・・・・・・・・ 8
- (7) ドキュメンテーション作成・・・・・・・・・・・・・・ 9

3 実践事例

- (1) 「色水研究所～試したり工夫したりしながら、いろんな色を作ろう～」 10～13
- (2) 「友達と一緒に運動遊びをしよう！～粘り強く友達に刺激を受けながら～」 14～17
- (3) 「リレーで1位になりたい！友達作戦だ！～話し合い活動を通して～」 18～21
- (4) 「みんなでつかざんまつり！～友達と試行錯誤しながら遊びの充実感を味わう～」
・・・・・・・・ 22～27
- (5) 「年長さんを招待してばんだ組祭りをしよう！～年長児に刺激を受けて～」 28～31
- (6) 「きれいな葉っぱ、みつけた～やり遂げる姿をめざして～」・・・・ 32～35
- (7) 「互いに工夫して遊ぼう！～友達と一緒にルールのある遊びを通して～」 36～40

4 研究の成果と課題及び今後の取り組み

- (1) 研究の成果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4 1
- (2) 課題及び今後の取り組み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4 1

5 その他

- ・環境図
- ・週案・日案

研究同人

1 研究の概要

(1) 研究主題

自立心を育むための環境構成と援助の工夫
～友達との関わりを通して～

(2) 研究主題の設定理由

幼稚園は、遊びを通して人と関わる力の基礎を育む大切な役割を担っている。そのひとつとして「人間関係」の領域に関連においては「自立心」は、重要と考える。

幼稚園教育要領解説第1章総説第2節にある「幼児期の終わりに育ってほしい姿」に示されている自立心の項目では、「遊びや生活の中で様々なことに挑戦し、失敗も繰り返す中で、自分でしなければならないことを自覚するようになる。教師や友達の力を借りたり励まされたりしながら、難しいことでも自分の力でやってみようとして、考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げる経験を通して達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。」とある。

本園幼児の実態を振り返ってみると、難しいことにはなかなか取り組もうとしない、友達との関わりの中で困ったことがあるとすぐに解決を諦めてしまう等、自立心の育ちに課題がみられる。

自立心は、幼児が身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、信頼する教師に支えられながら、物事を最後まで行う経験を重ねることで育まれ、その過程では、友達の存在が重要な意味をもつ。

そこで今年度は、幼児が友達との関わりを通して、自ら考えたり工夫したりしながら諦めずにやり遂げるよう環境構成や援助の工夫を行うことで、自立心が育まれていくのではないかと考え、本テーマを設定した。

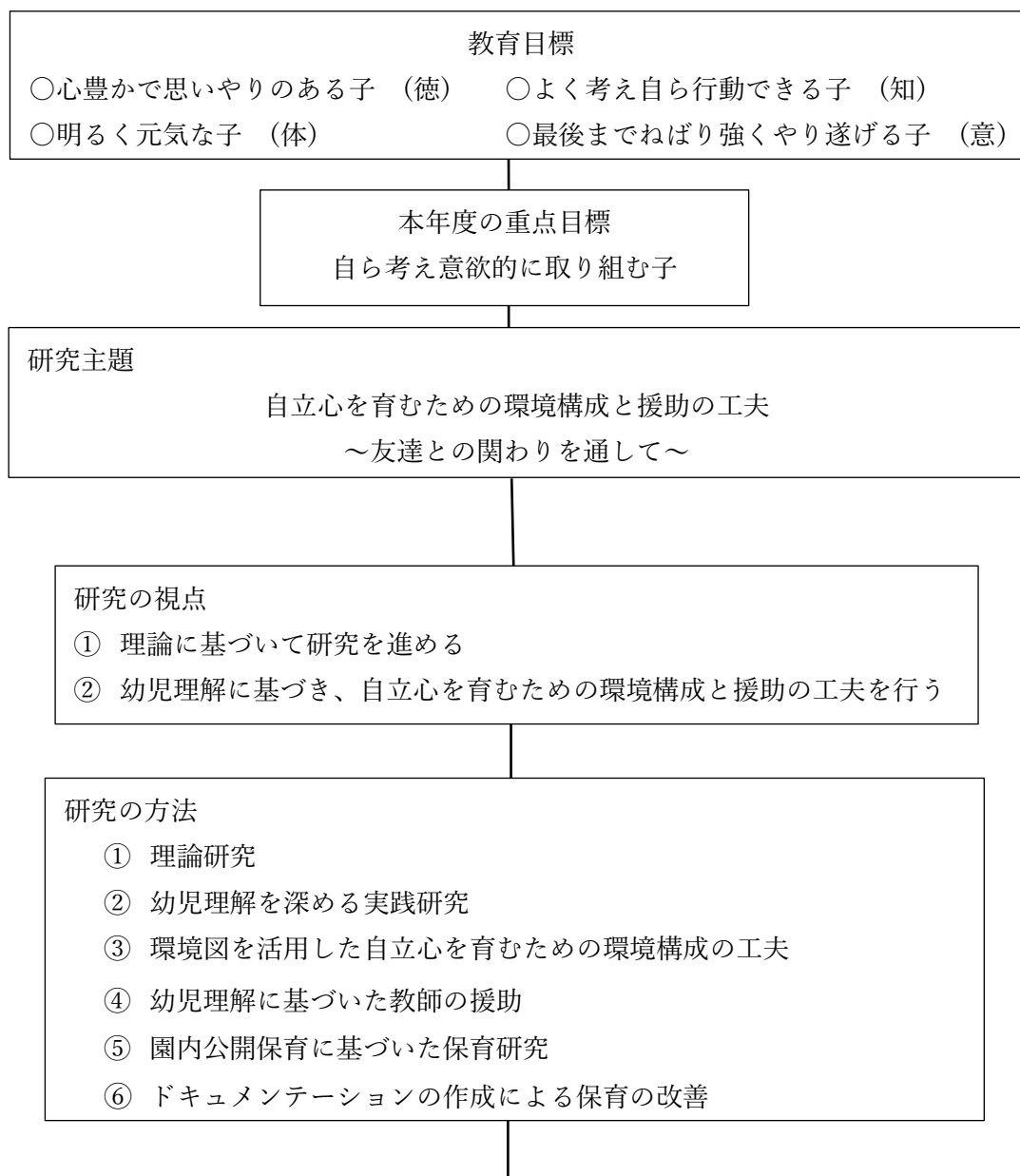
(3) 研究の視点

- ①理論に基づいて研究を進める
- ②幼児理解に基づき、自立心を育むための環境構成と援助の工夫を行う

(4) 研究の方法

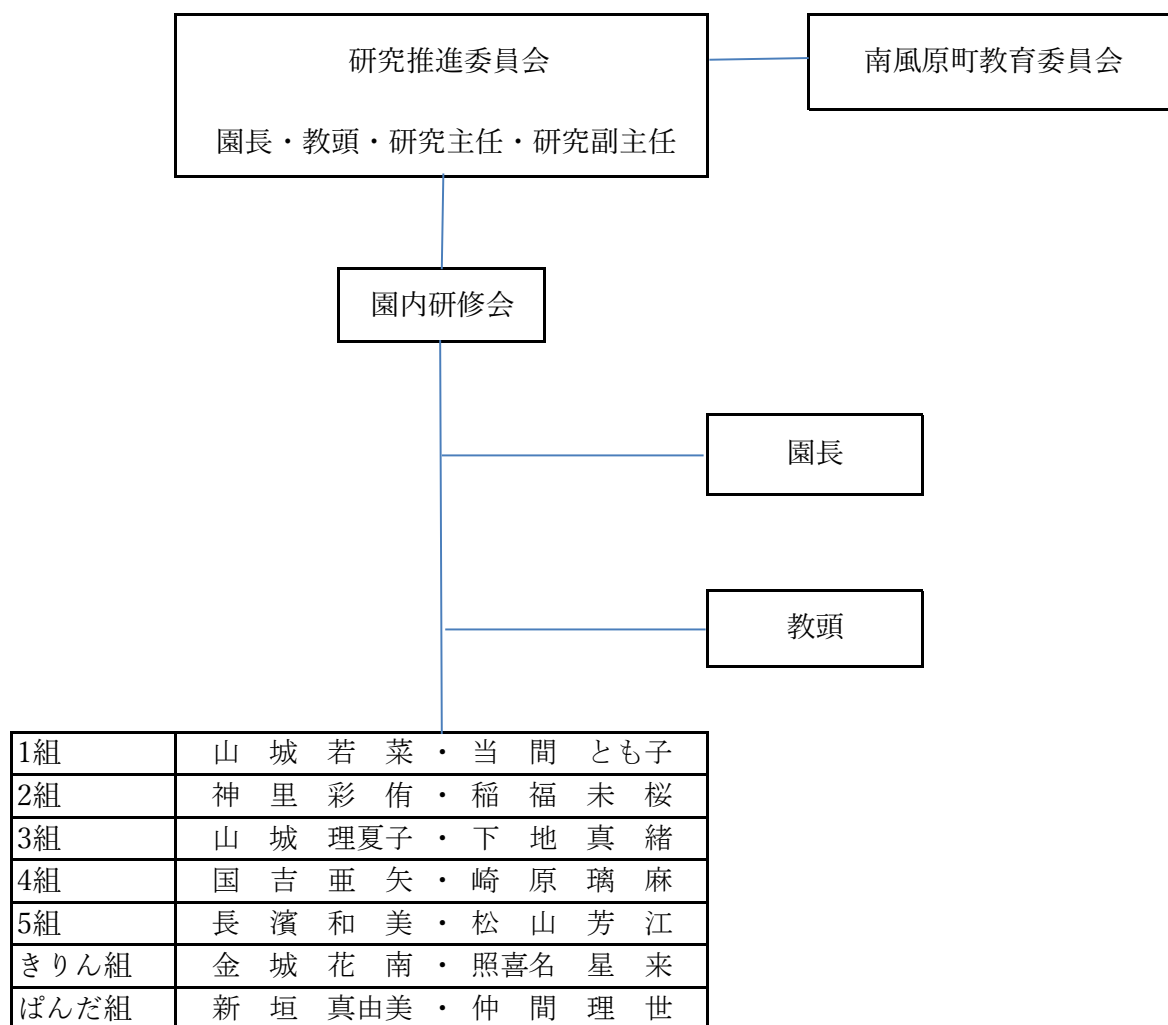
- ①理論研究
- ②幼児理解を深める実践研究
- ③環境図を活用した自立心を育むための環境構成の工夫
- ④幼児理解に基づいた教師の援助
- ⑤園内公開保育に基づいた保育研究
- ⑥ドキュメンテーションの作成による保育の改善

(5) 研究の全体構想図



幼児教育において育みたい資質・能力		
知識・技能の基礎	思考力・判断力・表現力等の基礎	学びに向かう力・人間性等
・ 基本的な生活習慣や生活に必要な技能の習得 ・ 規則性・法則性・関連性等の発見の楽しさに気付く ・ 身体感覚の獲得 ・ 日常生活に必要な言葉の理解 ・ 多様な動きや芸術表現のための基礎的な技能の獲得 ・ 様々な気付き、発見の喜びを共有する	・ 他の幼児の考えなどに触れ、新しい考えを生み出す喜びや楽しさを共有する ・ 言葉による表現のよさ、伝え合うことの楽しさに気付く ・ 振り返りを通して、次の活動や遊びに見通しをもつ ・ 予想、比較、分類、確認ができる環境の基で十分に遊ぶ	・ 安定した情緒 ・ 相手の思いに気付き、思いやりをもつ ・ 葛藤、自分への向き合い、折り合いをつける経験を重ねる ・ 自然現象や社会現象への関心をもつ ・ 友達と話し合い、共通の目的に向かって協力するよさに気付く

(6) 研究の組織図



(7) 研究の方針

- ① 研究推進委員会は研修計画案を立案し実施する。
- ② 園内研修会は全体的な計画や方向について共通理解を図る場とし、協働研究を進める。
- ③ テーマに沿った理論研修・実践研修を行う。
- ④ 園内研究テーマを常に自己課題として臨み、その解決に取り組む。
- ⑤ 専門職としての自覚を持って主体的に学び、資質の向上に努める。
- ⑥ 定期的に環境の見直しを行い、職員全体で環境構成の工夫に取り組む。
- ⑦ 園内公開保育を行う。(一人2公開保育)また、そのうち2回は保育研究会を実施する。
- ⑧ 園長・教頭は常に助言を行う。

(8) 研究の計画

月	形 態	研 修 内 容	場 所
令和5年 4月	園内研修会 園内研修会	・ 幼稚園教育目標と園経営について ・ 研究主題、サブテーマについて ・ 環境構成について、ドキュメンテーション作成	津嘉山幼稚園 津嘉山幼稚園
5月	四園研修会 園内研修会	・ 研究主題の捉えについて ・ 園児の実態把握と課題の分析 ・ 評価の仕方、環境の見直し ・ 期の振り返りワークショップ ・ 理論研究	中央公民館 津嘉山幼稚園
6月	園内研修会	・ 環境の見直し、ドキュメンテーション作成	津嘉山幼稚園
7月	四園研修会 園内研修会 保幼小連携	・ 公開保育、保育研究会 ・ 園内公開保育、保育研究会 ・ 保幼小連絡会	翔南幼稚園 津嘉山幼稚園 津嘉山小学校
8月	幼小連携 園内研修会 園内研修会	・ スタートカリキュラム、アプローチカリキュラムについて共通理解 ・ 期の振り返りワークショップ ・ 教育課程・指導計画見直し ・ 環境の見直し、ビデオ研究会	津嘉山小学校 津嘉山幼稚園 津嘉山幼稚園
9月	幼小連携 四園研修会 園内研修会	・ 2年生との交流会 ・ 公開保育、保育研究会 ・ 理論研究	津嘉山小学校 南風原幼稚園 津嘉山幼稚園
10月	園内研修会 四園研修会	・ 環境の見直し、期の振り返りワークショップ ・ 公開保育、保育研究会	津嘉山幼稚園 北丘幼稚園
11月	園内研修会 四園研修会 園内研修会 保幼小連携	・ 公開保育資料作成 ・ 公開保育、保育研究会 ・ 環境の見直し、ドキュメンテーション作成 ・ 1年生の授業見学	津嘉山幼稚園 津嘉山幼稚園 津嘉山小学校
12月	園内研修会 園内研修会 幼小連携	・ 園評価・個人評価について ・ 期の振り返りワークショップ ・ 音楽発表会鑑賞	津嘉山幼稚園 津嘉山幼稚園 津嘉山小学校
令和6年 1月	保幼小連携 園内研修会 園内研修会	・ 5年生との交流会 ・ 実践事例について、環境の見直し ・ 研究事例まとめ	津嘉山小学校 津嘉山幼稚園 津嘉山幼稚園
2月	保幼小連携 保幼小連携 園内研修会 四園研修会	・ 新1年生おまねき会 ・ 新1年生についての情報交換会 ・ 期の振り返りワークショップ、研究のまとめ ・ 研究実践発表会	津嘉山小学校 津嘉山小学校 津嘉山幼稚園 中央公民館
3月	園内研修会 園内研修会	・ 次年度の研究テーマについて ・ 次年度教育課程、研究計画作成 ・ 研究収録まとめ	津嘉山幼稚園 津嘉山幼稚園

(9) 研究の経過

月	形態	研修内容	場所
令和4年 4月	園内研修会 園内研修会	・幼稚園教育目標と園経営について ・研究主題、サブテーマについて ・環境構成についてのワークショップ ・第1回アンケート実施	津嘉山幼稚園 津嘉山幼稚園
5月	四園研修会 園内研修会 園内研修会	・研究主題の捉え・各園の研究計画について ・園児の実態把握と課題の分析、環境構成 ・期の振り返りワークショップ	中央公民館 津嘉山幼稚園 津嘉山幼稚園
6月	園内研修会 園内研修会 園内研修会	・園内公開保育、保育研究会 ・ビデオ研究会、環境の再構成 ・講師を招聘しての理論研究	津嘉山幼稚園 津嘉山幼稚園 津嘉山幼稚園
7月	四園研修会 園内研修会 保幼小連携	・公開保育、保育研究会 ・講師を招聘しての理論研究 ・期の振り返りワークショップ、環境の再構成 ・保幼小連絡会	津嘉山幼稚園 津嘉山幼稚園 津嘉山小学校
8月	幼小連携 園内研修会 園内研修会 園内研修会	・スタートカリキュラム、アプローチカリキュラムについて共通理解 ・1学期の反省と2学期の取組について ・ビデオ研究会、週案の見直し、記録の工夫 ・環境構成のワークショップ	津嘉山小学校 津嘉山幼稚園 津嘉山幼稚園 津嘉山幼稚園
9月	園内研修会 園内研修会	・園内公開保育 ・環境構成、ドキュメンテーション作成	津嘉山幼稚園 津嘉山幼稚園
10月	園内研修会 園内研修会 園内研修会	・環境の再構成、期の振り返りワークショップ ・週案の見直し、記録の工夫 ・共通理解を図る為の環境図作成	津嘉山幼稚園 津嘉山幼稚園 津嘉山幼稚園
11月	園内研修会 園内研修会 保幼小連携	・島尻教育研究所協力園事業・沖縄女子短期大学協働研究協力園公開保育・保育研究会 ・環境の再構成、ドキュメンテーション作成 ・1年生の授業見学・2年生との交流活動	津嘉山幼稚園 南風原町役場 津嘉山幼稚園 津嘉山小学校
12月	園内研修会 園内研修会 園内研修会	・園評価・個人評価について ・第2回アンケート実施 ・期の振り返りワークショップ ・2学期の反省と3学期の取組について	津嘉山幼稚園 津嘉山幼稚園 津嘉山幼稚園
令和5年 1月	園内研修会 保幼小連携 園内研修会	・環境構成のワークショップと実践 ・5年生との交流会 ・園内公開保育、研究事例のまとめ	津嘉山幼稚園 津嘉山小学校 津嘉山幼稚園
2月	保幼小連携 園内研修会 四園研修会	・新1年生についての情報交換会・お招き会 ・第3回アンケート実施、研究のまとめ ・研究実践報告会	津嘉山小学校 津嘉山幼稚園 中央公民館
3月	園内研修会 園内研修会	・研究収録まとめ・次年度の研究テーマについて ・次年度教育課程、研究計画作成	津嘉山幼稚園 津嘉山幼稚園

2 これまでの具体的な取組

(1) 理論研

6月と10月に沖縄女子短期大学の名渡山よし乃先生を招聘して理論研究を行い、保育に関する助言を頂いた。自立心を育む為に必要な環境構成、教師の役割、幼児の実態を踏まえた週案の作成等について研究を深めることができた。



【理論研】

(2) ワークショップによる実態把握

本園では「自立心が育まれた幼児の姿」をキーワードに挙げ、職員の共通理解を図るためのワークショップを行っている。

担任は学期や期の振り返りににおいて「幼児の姿」「行った援助」「次の期に向けた援助」等を書き出して幼児の実態や自立心の育ちを読み取り取り、その後の保育の見通しを持つための話し合いを行っている。また副担任も幼児の姿を多面的に捉え、実態や時期に応じた援助方法などを共有するためのワークショップを行っている。

ワークショップを通して幼児理解を深め、自立心を育むための必要な経験、環境構成、教師の援助等について職員で共通理解することで、自立心の育ちを意識した一貫性のある保育実践へとつながり、チーム保育にも生かされている。



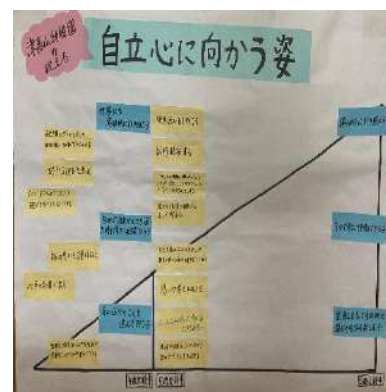
【ワークショップ】



【テーマの捉え】



【I期・II期振り返り】



【自立心に向かう姿の捉え】

(3) 実態調査アンケートの実施

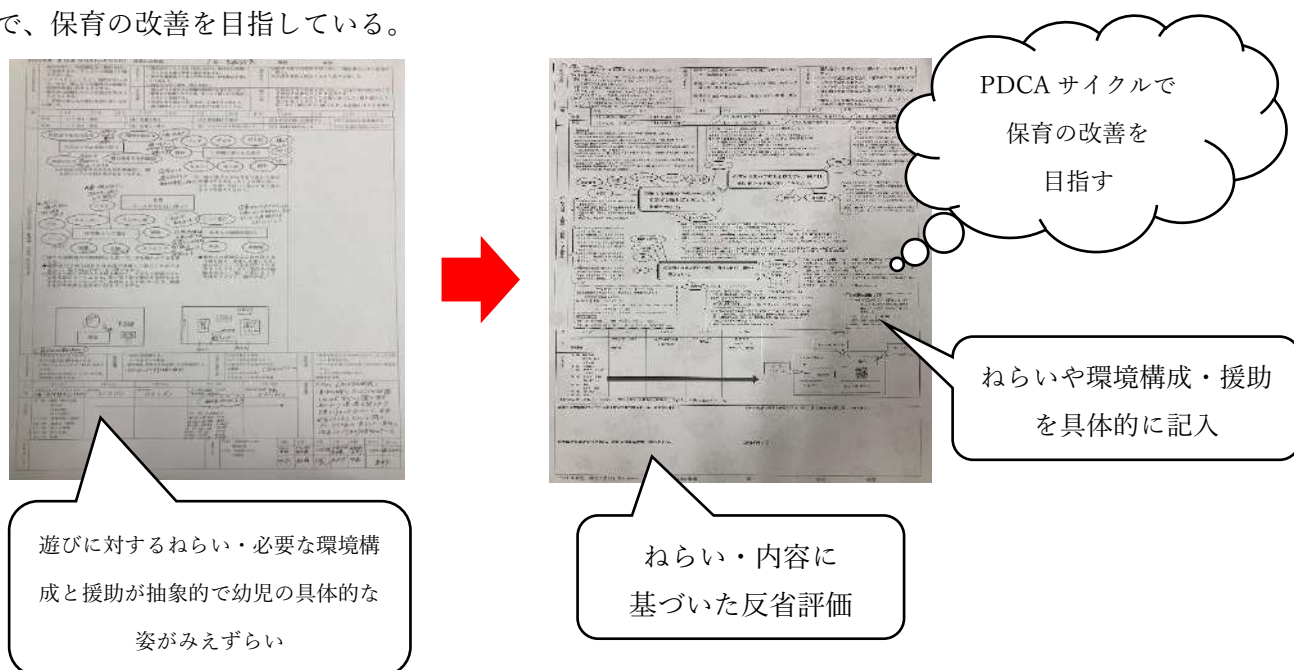
幼児の家庭や幼稚園での様子や育ちの変容等、実態を把握することを目的として、アンケート調査を行っている。アンケート調査は担任、副担任、保護者の三者で、年に3回実施している。アンケートの結果から、三者の捉えを把握することで研究テーマ達成に向けての手立てとしている。



【アンケート】

(4) 週案の工夫

週案等の保育記録は幼児理解と実際(環境構成・援助)の中で省察することが大切である。これまでの週案は、遊びの様子は分かりやすく書いていたが、一つ一つの遊びに対する具体的な環境と援助が抽象的で分かりづらかった。今年度は週のねらいの達成に向かって経験する内容が見やすいよう、一つ一つの遊びに対するねらいや必要な環境構成と援助を具体的に書きだしたことで、丁寧な幼児理解と、遊び一つ一つの環境に込めた教師の願い(ねらい)を職員間で共有することができ、次の保育につなげていくことができるようになった。また、週のねらい・内容に基づいた反省評価を行う(PDCA サイクル)ことで、保育の改善を目指している。



(5) 自立心を育むための環境構成の工夫

日々の保育の振り返りや週案会議の際に、幼児の発達段階や今どのようなことを経験しているのか等を共通確認した後に、様々な遊びの実態に応じた環境構成を担当と副担任で編成したグループで行っている。それぞれのグループが環境構成の意図に応じた素材や用具の選定、数などを検討し、幼児が主体的に様々な活動を楽しむことができる環境、自分の力で行うために考えたり、工夫したりできる環境、やり遂げた満足感を味わうことができる環境等、発達や時期に応じた環境を整えた後、全職員でチーム保育を実践している。また、実践にあたり、整えた環境を図にすることで可視化し、援助の方法を全職員で共有して保育のベクトルをそろえるようにしている。

その後も、幼児の興味や関心に応じた環境になっているかを見直し、環境の再構成を適宜行っている。



【興味・関心を育む環境】



【意欲的に挑戦できる環境】



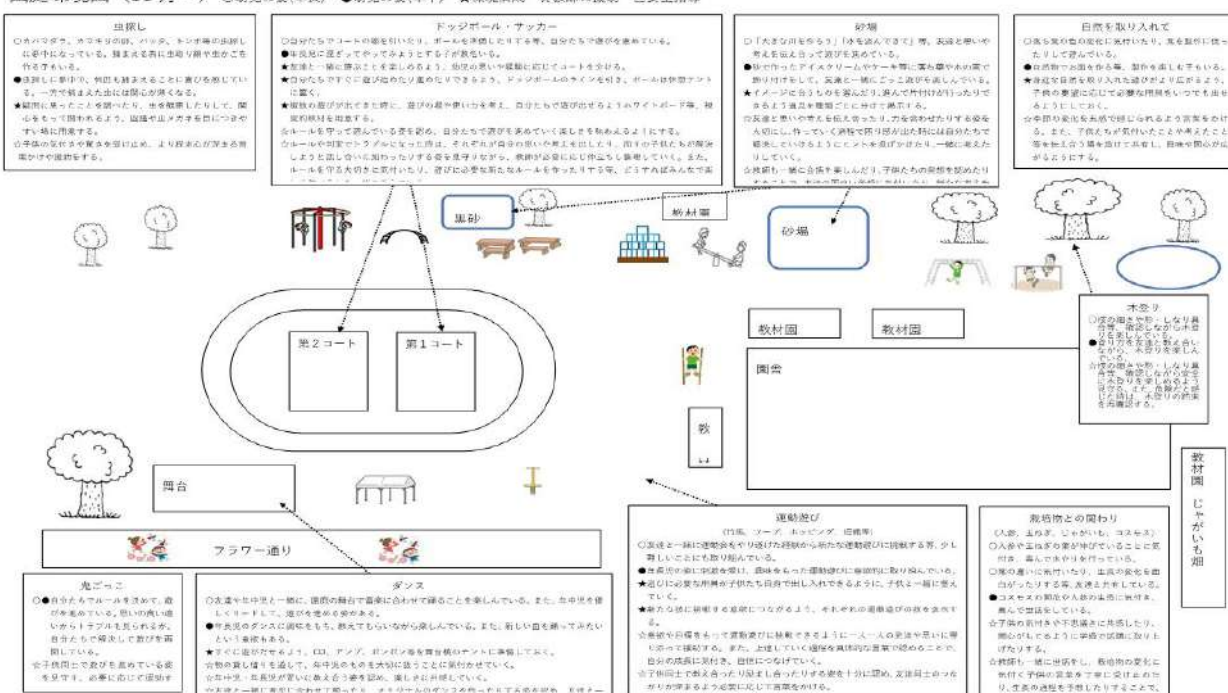
虫網作り



しゃぼん玉

【友達と試行錯誤しながら遊ぶ環境】

園庭環境図 (11月～) ○幼児の姿(年長) ●幼児の姿(年中) ★環境構成 ☆教員の援助 □安全指導



【環境図】

(6) 園内公開保育・保育研究会

本園では一人2回の園内公開保育を実施している。公開保育では、保育のねらいを基に、どのような環境構成や援助の工夫が行われているか、互いに参観し合うことで、自身の保育の改善や資質向上に努めている。

今年度は、互いの意見交換がしやすいよう参観の視点を具体的に示すなど、参観シートの内容を見直した。また、参観シートを基に保育研究会(年2回)を行い保育の振り返りや、自立心を育むための更なる環境や援助等について意見交換を行い、その後の保育につながられるようにした。

参観シートは全職員に回覧したことで、幼児の姿の捉えや援助の方法等、多様な考え方を共有することができた。



【公開保育】

(7) ドキュメンテーション作成

毎月担任と副担任が交代で、ドキュメンテーションの作成を行っている。ドキュメンテーションは「保育の見える化」だけでなく、担任・副担任の共通理解・振り返りにもつながっている。

また作成したドキュメンテーションを、玄関前に掲示することで園での子供の学びや成長等、保育内容を保護者に理解してもらえる良いツールとなっている。

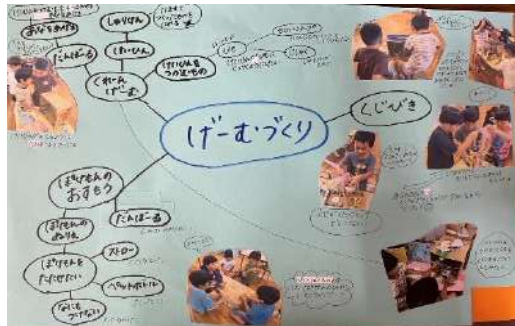
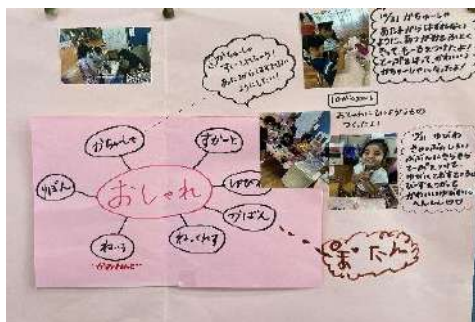
さらに、各学級で作成しているドキュメンテーションは、子供自身が自分の遊びの振り返りや新たな気づきにつながっている。子供同士で遊びのイメージを共有することで、遊びの広がりや深まりにもつながっている。



【保護者向けのドキュメンテーション】



【遊びのドキュメンテーション】



【子供と一緒に作るドキュメンテーション】

3 実践事例

事例（1） 「色水研究所」 ～試したり工夫したりしながら、いろんな色を作ろう～

① 前日までの幼児の姿(5歳児6月上旬～)

身近な植物に興味をもち、花摘みをしたり観察したりする姿が見られた。その中で色水作りの経験のある子が「指でつぶすと色が出るよ」と色水作りを楽しむ姿が見られるようになった。

活動の流れ	○教師のよみとり □環境構成 ◎教師の願い ☆教師の援助
A 児「ピンク色の水ができたよ」 教師「ほんとだ！ピンク色の水になってる。きれいだね。どうやって作ったの？」 A 児「お水の中で花をつぶしたら色が出るよ。」 教師「お花から色が出たの？」 A 児「そうだよ」 と、カップに水と花を入れ、指で花をつぶして色水作りを楽しんでいた。 子供たちの遊びの様子から園庭に色水コーナーを設け、色の出やすい様々な植物を用意した。 【植物から色が出る面白さや不思議さを感じながら】 色水コーナーを設けた後、コーナーでは作りたい色の花を探したり、「棒の方がつぶしやすいよ」と木の枝で花をつぶしたりと自分なりに考えながら色水作りを繰り返し楽しんでいた。 道具を準備すると、先行経験のある進級児が、 A 児「年中の時に使ったことある！水が少なくても色が出るよ」 B 児「ほんとだ！指でつぶした時よりたくさん色が出てるね。ぶどうジュースみたい！」 と濃い色が出ることに気付き、友達と気付いたことを伝え合う姿が見られた。 教師「C さんも見てみて！A さんたちぶどうジュースみたいな色が出たんだって！」 C 児「ほんとだ！どうやって色水作ったの？」 A 児「すり鉢にお花入れて棒でこするんだよ」 B 児「トントんってつぶしても色出るけど、ゴシゴシってするともっと色でるよ」 C 児「お花はどれ使うの？」	○身近な植物に興味が高まっているな。 ◎植物から色が出る面白さや不思議さを感じてほしいな。 □教師間で遊びの発展の見通しを話し合ったり用具を出すタイミングや言葉かけの仕方を確認したりした。 □子供たちがすぐに遊べるよう、また、使いたい植物を選べるように、色が出る、匂いのある様々な植物をコーナーに置く。 ○指以外でつぶす方法に気付いているな。 ◎すり棒やすり鉢、軽量カップ等の道具を出すことで自分なりに考えたり試したりしながら遊ぶ楽しさを感じてほしいな。 □必要な道具を取り出しやすいように道具ワゴンを用意する。 ○植物から色が出る面白さや不思議さを感じているな。 ○気付いたことを友達に伝えたり、遊び方を友達に教えたりする等、友達との関わりが見られるな。

A 児「来て、こっちだよ」
と、友達同士で色水の作り方や花のある場所を教え合っていた。



【繰り返し遊ぶ中で試したり工夫したり】

C 児「紫色の色水はどうやって作るの？」

A 児「紫色の色水作りたいなら紫の花で作れるよ。こっちにあるよ。」

D 児「赤と水色の色水を作ったんだけど、混ぜてみてもいい？」

教師「混ぜたらどんな色になるんだろう。楽しみだね。」

D 児「少し色変わったような気がするけど、あんまり分からない」

教師「少し赤色が薄くなっているね。この前の絵の具遊びの時、混ぜた色が変わらなかって思った時、どうしていた？」

D 児「もっと絵の具を入れていた。色水も、もっといっぱい入れたらいいのかな。やってみる！」



R 児「下から見るときれいだよ」

B 児「太陽の光りにあてると、とってもきれい！」

教師「ほんとだ！テントの中で見た時と色が違って見えるね」

M 児「ほんとだ！」



等、出来た色水の美しさに感動したり、試したり工夫したりする姿や友達のしていることに気づき、自分の遊びに取り入れていた。

作りたい色を作るために、自分なりに考え

◎友達とのつながりがもっと広がってほしいな。

☆子供たちの気づきや驚きに共感したり友達とのつながりが広がるような言葉をかけたり援助したりしていく。

☆作り方が分からず困っている子には、「○○さんがすてきな色水作っていたよ。どうやったのか聞いてみるといいよ」等の言葉をかける。

○作りたい色に合う植物を選んで使っているな。

○分からないことを友達に聞いたり自分なりに考えたりして解決しようとしているな。

○今まで経験したことを思い出し自分なりに考えたり試したりしながら色水を作っているな。

◎試行錯誤しながら遊ぶ楽しさを感じてほしいな。

☆以前の絵の具遊びの経験を思い出せるような言葉をかけ、どうしたらいいか考えたり、工夫したりできるように言葉をかける。



○できた色水の美しさに感動しているな。

◎明るさ・角度によって、見え方や色のわずかな変化等にも気付いてほしいな。

◎友達のしていることにも気づいてほしいな。

☆子供たちのつぶやきをひろい、色のわずかな変化等に気づき、考えたり試したりしながら遊ぶ楽しさを感じられるようにする。

☆試したり工夫したりしている姿や友達と教え合ったりしている姿を認めたり周りの子へ知らせていく。

○作りたい色の花を選び、色水を作っているな。紫やピンク、水色の色水を作っている子が多いな。

◎他にもたくさんの色があることに気付いてほしいな。

たり、試したり、友達と教え合ったりしながら繰り返し楽しんでいる。

【こだわってじっくり遊びこむ】

試行錯誤しながら遊ぶ楽しさをさらに感じられるように、色水コーナーに色水研究所と名前をつけ、色水を作るテーブルにカラーチャートを置くと

M 児「同じ色ができたよ」

教師「ほんとだね！他の色も作れるのかな？」

R 児「緑は葉っぱで作れるよ」

A 児「ピンク色の色水作れるよ」

教師「黄色の色水はどのお花使ったらいいのかな？」

A 児「2組さんが作ってた！聞いてくる」

A 児「Y さん、どうやって黄色の色水作ったの？」

Y 児「ひまわりの花で作れるよ」

教師「オレンジ色はどうしたら作れるのかな？」

M 児「オレンジの花で作れるんじゃない？」

A 児「でもオレンジの花ないよ」

D 児「混ぜたらいいんじゃない？」

A 児「いいかも！混ぜてみよう。でも何色と何色混ぜたらいいのかな？」

D 児「絵の具だったら黄色と赤混ぜるとオレンジになるよ」

M 児「黄色とピンクの色水混ぜてみよう」

とカラーチャートを見ながら作った色を比べたり、カラーチャートにある色を作るために友達と試行錯誤する姿が見られた。



また、水の量によって色水の濃さが変化することに気づき、自分の作りたい色に近づくよ

＜室内には・・・＞

□たくさんの色があることに気づき、関心ももてるように絵の具で作った色水やカラーチャートをホールに置く。



「〇〇色と〇〇色を混ぜたと思う」等、混ぜた色の予想を立てたり、どうしたら作れるのかを考えたりする姿が見られた。

□試行錯誤を楽しめるよう、色水コーナーに名前をつける。

□様々な色があることに気付いたり、作ったりできるようテーブルにカラーチャートを置く。



○どの植物を使えばどんな色ができるか気付いているな。

○友達と一緒に考えを出したり友達に聞いたりしながら工夫していろんな色を作ることを楽しんでいるな。

○じっくり遊びこむ中で、数量への興味・関心や感覚が芽生えているな。

☆一人一人の工夫や友達と教え合っている姿

う計量カップに色水を入れ「もう少し水入れよう」「400のどこまでいれてみる？」とこたわって色水を作る姿が見られた。

【友達と思いや考えを共有しながら】

友達と教え合ったり思いを伝え合ったりし、試行錯誤しながら色水を作っていく経験を重ね様々な色が作れるようになった子供たち。

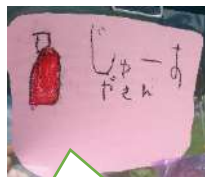
「いろんな色があってジュースみたいだね」

「ジュース屋さん作ろうよ」と思いを共有しながら遊ぶ姿や遊びを発展させていく姿が見られた。



私はジュース作るよ！

何味かわかるようにしよう



看板があると、みんながわかるよ

お店に必要なジュースを作る人、ジュースの名前をつける人等、自分たちで役割分担していた。

遊んだ後は、道具を片付けたりする姿や翌日も続きが出来るように置いたりする姿が見られた。



等を認めたり周りの子へ知らせたりしながら友達と試行錯誤しながら遊ぶ楽しさが感じられるような言葉かけをする。



いろんな色が作れたよ！



水入れ過ぎたら薄くなるよ

○友達と思いや考えを共有しながら楽しんでいるな。

☆子供の思いや考えを認めたり受け止めたりしていく。やりたいことが実現できるように一緒に考えたり、一緒に遊んでいる子が友達の思いや考えにも気づけるような言葉をかける。

□ジュース屋さんができるよう環境を再構成する。

いろんな味のジュースがありますよ！



○楽しさや充実感、満足感を味わったことで、道具の準備や片づけなども主体的に取り組んでいるな。



② 成果

- ・自然に触れたり関わったりする中で、子供の豊かな思考力、表現力が育まれてきた。
- ・自分の作りたい色に近づくように、計量カップで水の量を調整する等、友達と一緒に試行錯誤を積み重ねることで、数量や文字への興味・関心、感覚が芽生えてきた。
- ・教師が言葉を添えることで、子供は「どうなるんだろう」と観察したり考えたり工夫したり試したりと、探求心が芽生え、さらに遊び込んでいた。また、試行錯誤する経験を積み重ねる中で美しさや不思議さ等に気付いたり関心を寄せたりする等の姿が見られた。
- ・遊びを持続し、発展させ、遊び込むことで、幼児は楽しさや達成感を味わい、別の活動に取り組んだ際にもやり遂げようとする姿が増えた。また、自分がしなければいけないことに気付き自分たちで道具を準備したり、最後まで片付けたりする姿が見られた。
- ・心動かされるような体験をしたことを通して、したり見たり聞いたり感じたり考えたりしたこと等を自分なりに言葉にして伝え合う姿が見られた。

③ 今後の取り組み

- ・思いや考えを伝え合ったり認め合ったりしながら遊びを進めていけるよう、振り返りの場の持ち方（小集団や全体等）を工夫したり遊びの様子を可視化（ウェビングマップやドキュメンテーション）したりする等の子供同士を繋ぐための援助や環境構成をさらに工夫していく。
- ・やり遂げた経験を積み重ね、粘り強く取り組もうとする気持ちが育つよう、新しい事や少し難しい事にも取り組めるような環境を構成・再構成する。
- ・自立心を育むため、引き続き子供の発達や興味・関心、遊びの様子を捉え、職員間で連携し、環境構成や援助の手立てを探っていく。

事例（２）

「友達と一緒に運動遊びに挑戦しよう！」

～粘り強く友達に刺激を受けながら～

① 前日までの幼児の姿（４歳児 １０月）

２学期が始まり、友達や教師と再会を喜んでいる。戸外では年長児からの刺激を受けて運動遊びに繰り返し挑戦する子が増えてきた。「やってみよう！」と話しながらも、思うようにいかず、すぐに諦めてしまう子が多い。

活動の流れ	○教師の読み取り ◎教師の願い □環境構成 ☆教師の援助
（１０月前半） ２学期に入り、運動遊びに挑戦する子が増えてきた。年長児が竹馬や縄跳び、ホッピング等の運動遊びに挑戦している姿を見て、「先生！竹馬やりたい！」や「フラフープ回せるかな～」と話す子が大勢いた。一人一人が興味のある運動遊びに挑戦するが、竹馬が乗れなくて前に進めなかったり、フープを上手く回せなかったりと、すぐに諦めてしまう子も多かった。 「運動チャンピオン」という題名を付けて、画用紙に戸外にある運動遊びの絵を貼り、その日に取り組んだ運動遊びに自分の顔マグネットを貼る取り組みを行った。また頑張ったこと、できるようになったことを室内で発表できる場を設けた。  フープを回して遊ぶ子もいる中で、そばで見るだけの子もいる… 教師「○○さんも一緒にやってみる？」 A 児「できないからやらない!!」 教師「先生も苦手だから一緒に練習しよう！」 B 児練習したら回せるようになるよ！」	○年長児の挑戦する姿を見て、自分達もやってみたいと思っている子が多い。 □すぐに活動できるように、安全に配慮しながら道具の準備を行った。 ☆子供たちの運動遊びを見守りながら、一緒に挑戦し、楽しめるような言葉かけを行った。 ◎すぐに諦めずに、友達と一緒に楽しみながら頑張ってもらいたい。 ☆視覚教材で今どのような運動遊びが園庭に出ているのか見て、やってみたい運動遊びに挑戦できるようにした。  ○やってみたいけど、思い通りに回せないからやりたくないのかな。 ◎友達や教師に励まされながら、挑戦してほしいな。 ☆友達と楽しく取り組めるように、簡単な

A 児「やってみようかな…」

フープを身体の上から通してみたり、フープの上をジャンプしてみたりして、友達と一緒に楽しみながら行った。ホールや、戸外で友達と楽しく取り組む姿が見られた。



数日後・・・

A 児「少しだけ回せるようになったから、見ていてよ！」

教師「たくさん練習したから、できるようになったね!! ○○さんもフープ名人だね!!」

C 児「先生! 5回回せるようになったよ。」

B 児「2 個一緒に回すのもできるようになったよ!」

D 児「みんなにもできるようになったこと教えたいな…」

教師「みんなの前で発表してみようか？」

D 児「それいいね!!」

B 児「やってみたい! みんなに見せたい!」
戸外でクラスの子みんなを集めて発表会を行った。

子供「すごい。2つ同時に回している!」

子供「フープが止まらないで、ずっと回している!」

友達の頑張りを認め、友達のフープが止まりそうになると「頑張れ～」等と言葉をかけて、応援しながら見守る姿があった。また、発表した子供たちも「みんなに応援されながら発表できて嬉しかった!」「次は3つ、4つ回せるようになりたい!」と、次の目標をもち意欲的に取り組むようになった。

フープ遊びを提供し、子供たちが頑張れる言葉かけを行った。

□ホールでは範囲を決めて遊ぶようにし、子供たちと安全確認を行った。



☆出来るようになった喜びを一緒に味わい、引き続き取り組めるような言葉かけを行った。

☆発表する子の自信になったり、友達の頑張りに気付いたりできるような言葉かけを行った。

□友達に発表できる場を設けて、友達の頑張りを認めながら、刺激を受けられるようにした。



フラフープに挑戦した後、次は竹馬に挑戦する子が増えてきた。「竹馬に乗るのが難しい～」と話す子は、竹馬に乗れる友達からアドバイスを貰ったり、「誰か手伝って～少しおさえて～」と言う子には、お互いで励まし合ったりしながら、友達と「今日は5歩進めるようにする！」「少し高いのも乗れるようになりたい！」と目標を持って取り組む子が増えてきた。

周りの子が乗れるようになってきている一方で、乗れずに苦戦をする子もいるが、「〇〇さん乗れてきているよ！」「片手は離してみるね！」等と、友達や教師が言葉をかけながら一緒に取り組むことで、諦めずに頑張る様子も見られた。

手助けしていた子が乗れるようになると、一緒に喜ぶ姿も見られた。



片付けの時間になると、「明日もまた頑張ろうね。」と話しながら、明日への期待感をもち、片付けを行うようになった。

数日後・・・

フラフープと同じように発表する機会を設けた。友達に見せることで友達からの刺激を受けて、竹馬に挑戦する子が増えた。また竹馬を発表した子は、「一番高い竹馬に乗れるようになりたい！」「高い竹馬で階段もできるようになりたい！」と、さらに高い目標を持って、取り組んでいる。

◎目標を持って、友達と取り組む楽しさを味わってほしいな。

☆「竹馬に乗れる子からアドバイスをもらって見たらどうかな？」等と、友達と取り組む楽しさが感じられるように、言葉かけを行った。

□目標に向かって取り組めるよう、子供たちと一緒に準備を行い、他の運動遊びと動線が重ならないよう、環境を整えた。

○周りの子が乗れるようになってきて、少し不安もあるのかな。

☆焦らないで、意欲的に取り組めるような言葉かけや手助けを行った。



☆明日も意欲的に取り組めるよう、今日の振り返りをしながら、一緒に片付けを行った。



◎運動遊びを通して、友達と一緒に目標を持ちながら何事も粘り強く続けてほしいな。

② 成果

- ・自信が無く遊びを避けていた子と、教師も一緒に遊んだり、友達と繋ぐ言葉かけを行ったりしたことで、友達と一緒に挑戦し合う楽しさを感じることができた。
- ・できるようになったことを友達に発表する経験を積み重ねたことで、自信をもつことができるようになった。
- ・友達と一緒に挑戦しながら、互いに教え合ったりして次の目標を持つことができた。
- ・友達の頑張りを見たことで、自分も頑張りたいと思えるようになった子が増えた。

今後の取り組み

- ・子供たちの「〇〇に挑戦したい！」という声を拾いながら、何事も挑戦できるようにその都度、環境構成を工夫していく。
- ・目標に向かって粘り強く取り組めるように、掲示物を工夫したり、楽しく取り組めるような言葉かけを行っていく。
- ・発表する場やふりかえりの場の時間やタイミングを工夫していく。

事例（３）

「リレーで１位になりたい！友達作戦だ！」

～話し合い活動を通して～

① 前日までの幼児の姿(5 歳児 10 月初旬～下旬)

運動会に向けてリレーを楽しんでいる。「１位になりたい！」という気持ちがあるがなかなか友達に気持ちが伝わらず、もどかしそうにするＡ児の姿が見られる。必要に応じて教師が仲介役となり、走順を決めてリレー遊びを楽しんだり、走るのが得意な友達を中心に速く走る方法を話し合ったりする姿が見られる。そうして挑んだリレーの練習で３位になってしまい、悔しさから泣く子供の姿があった。「リレー楽しくなかった。」「嫌な気持ちになった。」と話す姿があった為、クラスで話し合いの場を持つことにした。

活動の流れ	○教師のよみとり □環境構成 ◎教師の願い ☆教師の援助
リレーの練習が終わり教室に戻ると、アンカーを走ったＡ児が泣いていることに友達が気付く。 Ｂ児「どうしたの？」 Ｃ児「大丈夫？」 Ａ児「リレー楽しくなかった、いやな気持ちにする」 と、話す姿が見られる。 教師「Ａさん、どうしていやな気持ちにするの？」 Ａ児「だって、みんな頑張る気持ちがなかったし、応援もしていなかったから楽しくなかったし嫌な気持ちになった。」 教師「そうなんだね。Ａさんアンカーで最後まで一生懸命に走ったもんね。」 Ｂ児「みんなにお集まりで話そう！」 Ｃ児「いいね！一緒に話しをするの手伝う！」 教師「そうだね。みんなに伝えてみようか。」 【全体での振り返り】 子供たちと学級で振り返りを行うと、 Ａ児Ｂ児Ｃ児「みんなにお話があるよ。」 みんな「なあに？」 Ａ児「今日のリレーで負けていやな気持ちだったよ。」 教師「どうしていやな気持ちになったの？」 Ａ児「だってみんな頑張る気持ちがなかったから。」 教師「そっか。でも頑張ったお友達もいるよね？」 そう言うと、クラスのほとんどが「頑張ったよ」と手を上げた。 教師「見て、こんなに頑張ったお友達が沢山いるのに、どうして涙が出るくらいいやな気持ちだったんだろう？」 Ｂ児「みんなおしゃべりばかりして応援していなかったよね。」	○友達の様子を気にかけてたり、優しく声をかけたりと、思いやりの心が育っているな。 ○泣くだけでなくしっかり言葉で自分の気持ちを伝えられているな。 ◎友達と一緒に頑張る意味を知り、運動会に対して気持ちが高まっていくきっかけになるといいな。 □全体で振り返る場を設け、友達の気持ちに気付き、みんなでどう取り組んだらいいか考える機会を作る。 ◎友達の気持ちを知ってほしいな。 ☆クラス全体で考えられるよう、問いかけながら話を進めていく。 ○過去の振り返りの時の話をしっかり覚えて

C児「うん、それにバトン渡すときに頑張れの気持ちじゃなかった人もいたよ。」

教師「確かに、先生も応援していたけど、みんなおしゃべりばかりしていたから先生も応援したい気持ちがなくなったな。バトンを渡す時、ぶつかって転んだ子と、落としてしまった子がいたね。」

A児「前のお集まりでバトンは優しく、頑張れの気持ちを込めて渡そうねって決めたのに。」

教師「そうだったね。みんな覚えていた？」
クラス全体に問いかけると、「忘れていた。」

「今思い出した。」と話す姿が見られる。

教師「Aさん、Bさん、Cさんお話してくれてありがとう。今からみんなで考える時間にしようね。今日のリレーで楽しかったな、運動会楽しみだなんて思ったお友達いる？」

と、問いかけると誰も手を上げなかった。

教師「どうして楽しいと思わなかったの？」

D児「頑張る気持ちがなくて負けたから悔しかった。」

E児「おしゃべりして応援していなかったから。」

F児「お友達がいやな気持ちになって悲しくなったから。」

教師「そっか。じゃあ運動会本番はどうやったら楽しくなると思う？」

A児「頑張る気持ちで一生懸命走っていたら楽しい！」

C児「頑張れの気持ちのバトンを渡したらいい！」

D児「最後まで諦めないで頑張って走ったらいい！」

E児「1位になったら楽しいから頑張りたい！」

F児「早く並んでかっこいいところお父さんとお母さんに見てもらいたいから、みんながそうしたらいいと思う！」

教師「みんな素敵な考えだね。今日1位になった4組さんも2位になった3組さんも並ぶのも早かったし応援もみんなですていて素敵だったよね。」

G児「私走るのが遅いからすぐ抜かされちゃうんだよね・・・」

教師「そっか。Gさんと同じ気持ちのお友達いる？」

と、問いかけると、クラスの三分の一ほど手を上げる。

教師「先生も走るの苦手だから、Gさんの気持ちわかるよ。ドキドキするよね。」

G児「うん。ドキドキするからどうやって走

いるな。

☆話し合いの中で、過去にみんなで決めたことを振り返りながら確認していく。

☆運動会本番を意識出来るような問いかけをし、しっかり考えながら振り返ることが出来るようにする。

◎“頑張るから楽しい”につながることに気付くことが出来るといいな。

□子供たちから出た考えはホワイトボードに書き、いつでも見ることが出来るようにする。



(走順)



☆一人一人思いが伝えられるよう、必要に応じて気持ちを引き出せる言葉をかける。

◎どの子も楽しんで走ってほしいな。

◎走ることが得意なお友達から走り方を教えてもらうことで、仲間意識の芽生えにつながるいいな。

「ったらいいかわからない。」
教師「走るのが得意なお友達に聞いてみようか？」

G児「どうやったら早く走れるの？」
問いかけに対して手を上げる姿がある。

A児「腕を早く振ったら早く走れるよ！」

D児「前を見て走ると早くなるよ！」

B児「最後まで諦めないで走ったら速く走れるよ」

教師「腕を早く振るって横に振ってもいいの？」

A児「ううん、縦にだよ！」

教師「そうなんだ！Gさん、みんなが教えてくれたよ。お外遊びの時間、一緒に練習してみる？」

G児「うん！やってみたい！」

ほかの子供たちも「やりたい！」と手を上げる姿がある。

教師がホワイトボードに書いた子供の考えを元に、話し合いを振り返る。

教師「みんなが教えてくれた素敵な考えが沢山あるね。読んでみるよ。」

- ① 最後まで諦めないで走る。
- ② 頑張れの気持ちでバトンを渡す。
- ③ 前を見て、腕を振って走る。
- ④ さっと早く並ぶ。

みんな、どう？」

と、問いかけると「いいね！」「リレーやりたくなってきた！」「頑張ったら1位になれるかも！」と、前向きな姿が見られた。

R児「みんなで決めたから友達作戦にしたらどう？」

A児「いいね！ほかのクラスにばれないようにしなきゃ！」

と、クラスみんながわかるよう作戦名を決め、運動会本番に向けた練習が再開した。

がんばるぞー！

えいえいおー！



○自分の思いを伝え、友達の考えを聞こうことが出来ているな。

☆子供の言葉が具体的にイメージできるよう、必要に応じて言葉をかける。

☆友達とのつながりが生まれ、遊びにつながるような言葉かけを行う。

☆みんなで考えたという意識になるよう、問いかけながら話を進める。



○考えを認め合い、本番までの課程を楽しんでいるな。

☆リレーを通して、みんなが頑張るから楽しい、自分が頑張ることでみんなが頑張る気持ちになるということを知り、みんなのために諦めずに取り組めるようにする。

② 成果

- ・クラス全体で話し合う場を設けたことで、自分とは違う思いや考えを知り、友達の話を聞く大切さに気付くきっかけになった。
- ・振り返りの場で思いや考えを共有したことで、自分も最後まで諦めないで取り組もうという気持ちにつながり、運動会に対する意欲も高まった。
- ・話し合いの中で走ることが苦手な友達に走り方を教えることが自己発揮するきっかけとなり、友達の良さに気付き、自分の良さを認められることでお互いに充実感を味わうことが出来た。
- ・「友達作戦」という作戦名が決まったことで考えた作戦を実行しようとし、練習の中で作戦を意識しながら話し合いながら取り組む姿が見られた。

③ 今後の取り組み

- ・自分の思いや考えを伝えたいくなるような振り返りの場を意識しながら意図的に設け、話したり聞いたりすることを繰り返し経験する中で、仲間意識がより深まるようにする。
- ・子供同士のやりとりを大切に、見守りながら必要に応じて援助をしていく。
- ・友達の思いに気付いてはいるが、なかなか素直になれずに本当の気持ちに反した行動をしてしまう子もいるため、丁寧に関わりながら関わる中で子供の素直な気持ちを引き出し、友達に自分の気持ちを伝えられるよう援助する。
- ・子供の実態に合った関わりや環境構成が行えるよう、副担任と連携しながら遊びを進め、自立心が育まれるような援助を行っていく。

事例（４） 「みんなでつかざんまつり！」

～友達と試行錯誤しながら遊びの充実感を味わう～

① 前日までの幼児の姿（５歳児１０月下旬～１１月初旬頃）

休日に那覇大綱挽や産業まつりに行った子供たちが多く、「お店屋さんがたくさんあったよ！」「〇〇は、わたあめ食べたよ」、「〇〇は、くじ引きしてカード当たった！」など、祭りで経験したことを教師や友達に伝えている。その後、製作コーナーの綿を使ってわたあめを作ったり、お家でくじ引きを作ってきたりと、祭りの経験を再現して遊ぶ子が出てきた。１１月に入り、幼稚園でつかざんまつりが行われることを知らせると、子供たちは意欲をみせ、どのようなお店屋さんがしたいかを話し合った。たくさんの候補の中から、射的と金魚すくいのお店を開くことに決まり、まつりに向けて準備を進めることになった。

活動の流れ	○教師の読み取り ◎教師の願い □環境構成 ☆教師の援助
（射的屋さん） まつりで射的を経験した子を中心に、どんなものが必要か話し合い、射的に必要な割りばし鉄砲を作るようになった。 K 児「俺、作り方分かるよ！割りばしと輪ゴムを使うよ！」 家庭で作った経験のある K 児から、作り方を教わり、みんなで割りばし鉄砲作りに取り組んだ。切った割りばしをバランスよくつなげたり、輪ゴムを通したり一人で難しい場面では、「一緒に手伝って」と伝え、友達と協力して進める姿が見られた。また、後半になると自分で作り方を確認し、じっくり製作に取り組んだ。 	○射的の経験がある子が、具体的に話すことで、イメージを共有しているな。 ◎友達と一緒に遊びを進める楽しさを味わってほしいな。 □自分たちで製作できるよう、割りばし鉄砲に必要な材料を準備した。（割りばし、輪ゴム） ☆「割りばし鉄砲は、どうやって作るの？」と作り方を知っている子に聞き、教えたり教わったりできるよう言葉をかけた。 ☆割りばし鉄砲の作り方を自分で確認しながら進められるよう、手順を視覚的に分かりやすく表示した。 

その後、景品のカードや射的台の製作に取り組んだ。射的台が完成すると、実際に景品を置き、割りばし鉄砲で当てることができるか実験を行った。 S 児「射的台から遠いと、輪ゴムが景品に当たらないね」 T 児「もう少し前からにしよう。テープで印もつけよう」 友達と考えを出し合い、射的の立ち位置が決まると、友達と挑戦することを楽しんだ。  作成したウェビングマップを見ながら、 H 児「割りばし鉄砲も景品も準備ばっちりだね！」 T 児「あとは、お客さん来た時に誰がどんなことするか決めよう！」 と活動を振り返り、まつり当日に期待をもつ姿が見られた。 (金魚すくい屋さん) 実際に金魚すくいを経験した子が少なかった為、絵本や教材を見てイメージを共有した。 R 児「金魚すくいには、金魚とポイが必要だね」 C 児「ポイ作るの難しそうだね・・・」 M 児「ポイの外側はモールで作れそうだよ」 S 児「中の白いところは、紙にする？」 M 児「破れないとおもしろくないよね」 これまでの経験から、ポイにできそうな素材について話し合い、製作を行った。	□子供たちから出たアイデアが実現できるよう、必要な材料を準備した。(段ボール、ガムテープ、塗り絵、ラミネート) ☆子供たちなりに試す姿を見守り、「どれぐらいの距離だと当たるのかな？」と一緒に考えたり、「〇〇さんはどう思う？」と意見を引きだしたりして、友達同士で考えを伝え合いながら進められるよう言葉をかけた。 ☆話し合う姿や子供たちの考えを認め、自信をもって活動に取り組めるよう言葉をかけた。 ☆その日の活動を書き込んだり、写真を貼ったりできるウェビングマップを作成したことで、視覚的にも振り返ることができるようにした。  □イメージが共有できるように、夏祭りに関する絵本や教材を準備した。 ◎友達とイメージを共有し、試したり工夫したりしながら遊ぶ楽しさを味わってほしいな。 ☆子供たちの気付きや発見を受け止め、どのような素材なら作ることができるか一緒に考えていった。 □イメージしたものを再現できるよう、必要なものを準備した。(モール、セロハンテープ、紙)
--	---

M 児「モールを 2 本か 3 本つなげたら、ポイの形が作れるよ」 H 児「本当だ！中の紙はどうやって貼る？」 M 児「セロハンテープにしてみよう」  H 児「ポイが完成したから、水につけて実験してみよう！」 水につけて実験した結果、ポイの白い部分を紙にしまうと、なかなか破れないことが分かった。ティッシュにすると破れることが分かり、モールにティッシュを挟んでポイを作ることになった。 また、金魚作りでは、どの素材で作った金魚が水に浮かぶのか実験を繰り返した。 R 児「紙で作ったら、破けちゃったね」 M 児「重くて沈んでいる金魚もいるよ」  S 児「ヤクルトのカップは水に浮かぶよ」 C 児「ゼリーのカップはどうかな？」 話し合いを重ね素材を比べた結果、軽くて水に浮かぶプラスチックで金魚を作ることになった。ポイと金魚が完成すると、実際に金魚すくいを行った。 M 児「金魚 2 匹もすくえたよ〜！」 S 児「ポイ破れちゃった・・・」 完成した金魚すくいを自分たちでやってみ	○子供たち同士で、考えを出し合ってポイ作りを進めているな。 ☆一人一人のアイデアを認めたり、周りの子に知らせたりすることで、互いの考えを認め合いながら遊びが進められるよう言葉をかけた。 □水を使ってもいい場所や使う道具など、一緒に決めることで、自分たちで実験が進められるように準備した。 ☆子供たちの気付きや発見に共感し、「どんな素材ならいいのかな？」と一緒に考えていくことで、他の素材で試したり工夫したりできるよう言葉をかけた。 ○実際に金魚を水に浮かべてみることで、様々なことを発見しているな。 ◎素材の特性に気付き、考えを出し合いながら金魚作りをしてほしいな。 ☆子供たちの気付きや発見に共感し、「どうした金魚は浮かぶのかな？」と問いかけたり、友達の考えを聞いたりすることで、素材の特性に気付けるよう関わった。 □気付きや発見を書いて共有できるよう、ホワイトボードを準備した。 ☆「金魚すくい完成したんだね！」「とても楽しそう！やってみたいな」と自分たちで作り上げた喜びや満足感が味わえるよう言葉をかけた。
---	---

たことで、楽しさや満足感を味わった。

振り返りの場では、

M児「何回も作り直して、ポイや金魚を作ることができました」

S児「実際にやってみて、金魚をすくえたことが嬉しかったです」

など、工夫したことや頑張ったことをみんなに伝え、共有した。友達から、「おもしろそう！」、「やってみたいな」と伝えられると、嬉しそうな表情を見せ、まつり当日に期待をもつ姿が見られた。

(つかざんまつり当日)

射的屋さんや金魚すくい屋さんは掃き出し口でお店をオープンした。お客さんの年中児がやって来ると、「いらっしやいませ」、「やり方が分からなかったら教えるよ」と優しく言葉をかける姿が見られた。割りばし鉄砲で景品を当てることができたり、ポイを使って金魚をすくうことができたりした時には、「やったね！おめでとう」と喜びに共感し、年中児も満足感を味わう姿が見られた。



まつり後半には、お客さんとして他学級のお店を回った。

S児「一緒に焼きそば買いに行こう」

K児「3組のゲーム、楽しかったよ！一緒に行こう！」

食べ物を買ったりゲームをしたり、友達と一緒にまつりを思い切り楽しむ姿が見られた。



☆友達の活動を知り、工夫したことや頑張ったことなど互いを認め合えるよう、振り返りの場を設けた。

☆子供たちと事前に役割を確認することで、お店屋さんになりきって活動に取り組めるようにした。

○お店屋さんになりきっている子、緊張している子がいるな。

◎お店屋さんとして、年中児をリードしてほしいな。

☆年中児に優しく接する姿を認めたり、自信がもてるよう「○○さん、優しく教えていて素敵だね！」と言葉をかけたりした。

○自分たちがお客さんになることを、喜んでいるな。

◎まつりの雰囲気を味わいながら、友達と楽しく過ごしてほしいな。

☆どのお店に行こうか迷っている子には、一緒にお店を見て回ったり、どんなお店があるか友達に聞いたりしながら、安心してまつりに参加できるようにした。

(振り返り) まつりが終わると学級に戻り、振り返りを行った。 H 児「射的屋さん、とても忙しかったけどお客さんが楽しいと言ってくれて、嬉しかった」 T 児「お客さんになって、いろんなお店に行ったのが楽しかった」 一人一人、頑張ったことや楽しかったことを伝え、みんなで共有した。 また、年中児数人が教室を訪れ、「射的で、当てたのが嬉しかった」、「金魚すくいが難しかった」、「優しく教えてくれて嬉しかった」と感想を直接伝えてくれた。  年中児から感想やお礼を伝えられた子供たちは、「つかざんまつりやってよかった!」と嬉しそうに話し、満足そうな表情を見せた。	◎頑張ったことや楽しかったことを、みんなで伝え合って共有したいな。 ☆互いの頑張りを認め合ったり、楽しさを共有したりできるよう、振り返りの場を設けた。 ☆子供たちの思いに共感したり、認めたりすることで、達成感が味わえるような言葉をかけた。 ○お店の人の大変さやお客さんに喜んでもらえる嬉しさ、お客さんとしてお店に行く楽しさを味わっているな。 ☆「みんなが優しく教えてくれて、年中さん嬉しかったんだって!」、「先生も嬉しいな」と、子供たちの姿や頑張りを認めることで、年長児としての自信や達成感が味わえるよう言葉をかけた。 ☆子供たちからの感想や年中児が話してくれたことを振り返り、みんなでまつりに向けて取り組んできた達成感や喜びが味わえるよう言葉をかけた。
--	---

② 成果

- ・ウェビングマップにその日の活動を書き込んだり、写真を貼ったりしたことで遊びの状況が分かりやすくなり、自分たちで活動を振り返るようになった。また、明日はどのような活動をするか、なにが必要かなど見通しをもって取り組めるようになった。
- ・子供たちが自ら考えたり工夫したりする過程を大切にすることで、子供同士でアイデアを出し合ったり認め合ったりしながら遊びを進めることができた。
- ・まつりが終わると、「みんなで頑張ったね!」と互いの頑張りを認め合ったり、「お客さんが来て嬉しかったね」と思いを伝え合ったりする姿が見られた。「つかざんまつり」とい

う共通の目的に向かって取り組んできたことが、友達と一緒に遊びを進める楽しさや満足感を味わう経験につながった。

③ 今後の取り組み

- ・子供たちの「やってみたい」という意欲を大切に、友達同士での遊びが広がるよう、その時期の興味・関心に沿った環境構成や援助を行っていきたい。
- ・今後も、友達と思いや考えを出し合ったり協力したりしながら園生活を進め、友達のよさや一緒に活動する楽しさが味わえるよう援助していきたい。

事例（５）

「年長さんを招待してぱんだ組祭りをしよう！」

～年長児に刺激を受けて～

①前日までの幼児の姿（４歳児、１２月）

１１月末、年長児が開催する“つかざんまつり”に招待してもらい、自分たちで財布とお金を作って参加した。射的屋さんやオシャレ屋さん、レストラン、おばけ屋敷等、たくさんのお店が並び、目を輝かせている年中児。お祭りでは、年長児に優しくリードしてもらったり、やり取りを楽しみながら一緒に遊んでもらったりと、アイディア溢れるお祭りに夢のような時間を過ごした。この感動的な体験から、今度は自分たちが年長児を招待してお祭りがしたいと話す言葉が聞こえてきた。

活動の流れ	○教師の読み取り ◎教師の願い □環境構成 ☆教師の援助
【年長児の開催するつかざんまつりの様子】  振り返りの場を設けると、 A児「ビー玉転がしやユーフォーキャッチャー、色んなゲームがあって楽しかった！」 B児「レストランのスパゲッティが本物みたいで美味しかったよ！」 C児「映画もとっても面白かったよ！アンコールして２回も見た！」 D児「オシャレ屋さんでネイルしてもらって嬉しかった！ピアスもしてもらって可愛かったよ！」 E児「ぱんだ組も年長さんを招待してお祭りがしたい！」 教師「いいね。面白そう！ぱんだ組さんは年長さんにどんなものが見せたいの？」 F児「ぱんだ組にもお祭り（屋台）があるから、そのお祭りに呼びたい！」 G児「オシャレ屋さんもやってみたい！」	○年長児のお祭りに刺激を受け、教師や友達に伝えたいことがたくさんありそうだな。 □振り返りの場を設け、互いの思いを共有する。 ○年長児に感謝の気持ちをもち、自分たちも何かお礼となることをしたいと思っているのではないかな。 ◎年長児からの刺激をきっかけに、年中児も友達と同じ目的に向かって遊びを進めてほしいな。 ☆思いや考えを出し合い、話し合うきっかけとなる言葉をかける。

H児「製作で作ったゴジラも見せたい！」 教師「どれもいい考えだね。ゴジラは見せるだけでいいのかな？年長さんに喜んでもらうためにゴジラを使って何かできないかな？」 I児「ゴジラと握手ができるのはどう？」 H児「ゴジラの映画したら？」 A児「映画ってどんなしてやるの？」 教師「映画みたいなショーにするのはどう？」 B児「いいね！ゴジラのショー！今作ってるゴジラのトンネルも完成したらいいかも！」 話し合いの結果、お祭りとゴジラショーに招待するという事に決まる。 ----- 翌日からの好きな遊び ----- お祭りコーナーでは、これまで作ってきたお祭りに新しい商品を作り足したり、「レジも必要だね」と廃材を組み合わせレジを作ったりするなど、友達と一緒にお祭りをイメージして遊びを進めようとする姿が見られた。 また、「お店の人がもっといっぱいはいるように広くした方がいい。」「アクセサリ屋さんも一緒だと楽しい！」等と、思ったことをどんどん言葉にしているので、そのつぶやきを聞き逃さないよう教師も一緒に遊ぶ中で、子供のたちの思いを受け止め、一緒に場を整えていった。 ゴジラコーナーでは、トンネルを完成させて年長さんに通ってもらいたいとトンネルを強化したり、ゴジラショーを見せようと自分たちでお話を考えてみたりと、友達と力を合わせて遊びを進めようとする姿が見られた。 ----- お祭り前日 ----- 年長児に招待状を渡すため、文字が分かる子が代表となり招待状を書いた。どんなことを知らせたらよいか考え、「ばってどんなして書	☆子供たちの発想を認めながら、喜んでもらうためにはどうしたらよいか思いや考えを引き出していく。また、年長さんを招待するという同じ目的に向かって話し合いができるよう、言葉を補っていく。 □話し合いで決まったことが実現できるよう教室の環境を見直す。 □子供たちから出た必要な材料や道具を準備する。 ☆作りたい商品が再現できずに困っている時は、教師も一緒に方法を考えながら、同じ目的に向かって遊びを進める楽しさが感じられるよう援助する。 □どんな空間にしたいのか思いを聞き、子供たちと一緒に場を整えていく。 【トンネル作りの様子】  ☆同じ目的に向かって遊びが進められるよう互いの思いをつないでいく。 ○年長児から招待状をもらった経験から、自分たちも招待状で知らせたいと考えたんだな。
---	---

くの？」等と文字の書き方を教師に聞きながら、一文字ずつ丁寧に書いていた。

招待状を渡す時は、緊張しながらも「ぼんだ組でお祭りをやるので遊びに来て下さい！」としっかりと伝えることができた。

また、年長児に喜んでもらうためにどうしたらよいか話し合うと「来てくれてありがとうのプレゼントを渡したい！」と折り紙でサンタのメダルを作ることになる。

サンタの折り方が分かる子がミニ先生となり友達に折り方を教え、リボンを付けるなど、自分たちで最後まで完成させていた。

また、おもてなしの方法を話し合ったことで、お祭りの店員さん、トンネル係り、ゴジラ係りと当日の役割を決めたり、事前にゴジラショーのリハーサルを行ったりする姿につながった。「早く来ないかな？」「喜んでもらえるかな？」と友達と顔を見合わせ、期待に満ちた表情で最後の準備を行っていた。

----- お祭り当日 -----

年長児が来ると期待と共に緊張感に包まれて、どの子も顔がこわばっていた。教師が「いらっしやいませ～。」「大丈夫だよ。練習したように『トンネル通って下さい』ってみんなで言ってみよう！」と言葉をかけると、声を合わせて「トンネル通って下さい」と元気に伝えることができた。

一言目が伝えられたことで緊張が和らぎ、その後は「いらっしやいませ。やきそばありますよ～。」「チョコバナナもあります。」「こっちでゴジラと握手ができますよ。」と年長児に自分から話しかけることができていた。年長児から「これ、おいくらですか？」「どこで食べたら

【招待状を渡す様子】



□当日、年長児をもてなす方法について学級全体で話し合う場を設ける。

☆教師がやり方を教えるのではなく、得意な子が教えることで自信につながるよう友達とつないでいく。

【プレゼントのメダル作りの様子】



○年中児なりに「おもてなししたい」「喜んでもらいたい」という思いがあるからこそ緊張しているんだな。

☆教師が笑顔で話すことで、モデルとなるようにする。また、緊張が和らぐよう安心できる言葉をかける。

◎友達と一緒にお祭りを進める楽しさや、やり遂げる充実感を味わってほしいな。

◎年長児との関わりが更に深まるといいな。

いいですか？」と優しく話しかけられると、笑顔でやりとりを楽しんでいた。

【お祭りでのやりとりの様子】



全てのプログラムを終えると、安心した表情を浮かべ、「お兄ちゃんたち喜んでくれてよかったね。」と年中児なりに友達と一緒にやり遂げた充実感を味わっている様子だった。

☆自分たちで進めようとする姿を見守り、必要に応じて援助する。

【ゴジラショーの様子】



☆友達と一緒にやり遂げた充実感、年長児をおもてなしできた喜びに共感し、一人一人の頑張りを認める言葉をかける。

②成果

- ・教師が思いを引き出したり、言葉を補ったりするなど、互いの思いや考えをつなぐ援助を行ったことで、子供たち一人一人が自分の思いや考えを言葉で伝えることができ、同じ目的に向かって遊びを進めようとする姿につながった。
- ・学級全体で話し合いの場を設けたことで、年長児をおもてなししたいという目的をもち、同じ目的に向かって遊びを進めるようになった。
- ・同じ目的に向かって遊ぶ中で、友達と力を合わせたり、互いの考えを受け入れたり、試行錯誤しながら進める姿が見られるようになり、お祭り当日は友達と共にやり遂げる充実感を味わうことができた。
- ・年長児に感謝の気持ちをもち、年中児なりにおもてなしをしたことで、年長児との関わりがより深まった。

③今後の取り組み

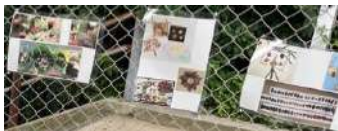
- ・友達と同じ目的に向かう中で、様々な感情体験ややり遂げる経験を重ねさせたい。
- ・今後も、思いを実現するために試行錯誤しながら遊びを進められるよう援助していく。

事例（6）

「きれいな葉っぱ、みつけた」
～やり遂げる姿をめざして～

① 前日までの幼児の姿(5 歳児 11 月上旬)

園庭で集めることのできる身近な自然物を使って友達と一緒に自然物ままごとや、くつつき虫ダーツなどを繰り返し楽しむ姿が見られる。また、木の枝を集め、立体的に重ね合わせて「枝同士をくつつけて、面白い形を作りたいな!」「セロハンテープとのりではくつつかなかったから、ボンドを使ってみよう!」という声もあり、自然物を使った遊びを膨らませていく姿があったので、自然物遊びができる環境構成を行うことにした。

活動の流れ	○教師のよみとり □環境構成 ◎教師の願い ☆教師の援助
—————【準備に意欲的な姿】————— 遊びに必要なものが、ワゴンにセットされている環境を整えたことで、子供たち自らワゴンをコーナーに出す姿が見られた。 K 児「先生ー、葉っぱで花火づくりがしたいから、自然物ワゴンを持って行くね!!」 R 児「一緒に運ぶの手伝うよ! こっち持つから、K 児は、あっち持ってね!!」 と、遊ぶための準備を意欲的に進める姿に、教師「自分たちで遊ぶ準備がしたくなるぐらい、遊びたい遊びがあるんだね!先生も仲間に入れてね!」 K 児、R 児「うん、いいよ!完成したら、先生に見せるね!」 と、積極的に準備をする姿があった。 —————【諦めずにやり遂げる姿】—————  真っ赤な葉っぱを集めて、花火づくりの続きをしよう! K 児「先生、花火づくりの続きがしたいから赤い葉っぱを集めに行くね!」 教師「赤い葉っぱ、どこにあるかなあ?」 K 児「知ってるよ!小学校の運動場の近くに生えている木にあるよ!」 「K、ずっと前から赤い葉っぱが、あそこにあること知ってたんだよ!」 と、園庭の木々の特徴を、これまでの活動の中から把握していた様子の K 児は、目的の場所に颯爽と向かっていき、目当ての赤い葉っぱを集め、花火づくりに取りかかった。	◎自然物遊びを楽しみながら自己発揮ができる経験をしてほしい! □じっくり活動ができる木陰の場所に自然物遊びのコーナーを設けた。 □使うものが取り出しやすいように 3 段ワゴンを使用する。 ☆使うものの素材や教材、教具等を子供たちが使う時に教育的な意味を持つようなものを精選した。 (画用紙・コピー用紙…遊び方の違いでどれを使用した方がよいか選べるように。 透明ケース…集めた自然物がダイレクトに視覚に働きかけるように。 紙テープ…引っ張り過ぎたりせずに丁寧に扱えるように。また、紙テープだと風をとらえた遊びにも気づくかもしれない…。 ボンド…この時期に応じたボンドの正しい扱い方を知ってほしい。等…。) □自然物遊びが深まるような視覚教材の掲示をした。   □3段ワゴンが目につくようにコーナー近くのベランダに出して置く。 ☆今日の遊びたい遊びの話し合いをさりげなく行い、自然物遊びがしたくなるようにした。 ☆意欲的に準備をしている姿を認めながら、一緒にコーナーを整えたりして、場の整え方も身につくようにした。



葉っぱをこの紙にくっつけたいけど難しくて…。

R 児「もう、ヤダなあ。くっつけたいけど、すぐとれちゃう…」

教師「R さん、頑張っているね!」

「R さんが作りたいもの、先生も、お友達も見たいから、完成できるように、押さえたり、ボンドの塗り方を一緒にやってみようね!」

「R さん、ボンドの量の付け方がいいくらいだね! 上手に塗れてるから、ちゃんとくっつくと思うよ! 完成したら〇〇先生に、ボンドを塗るのを頑張ったよ! って伝えてね!」

と、R さんの完成させたい意欲や諦めずに取り組む姿を R さんにわかるように伝えた。

ある日の姿

自然物製作と自然物ままごとが同じテーブルで遊ぶ姿があった。



【干渉しないようテーブルを分けた】



(製作)



(ままごと)

異年齢との関わり



この作り方はね、鉛筆で擦るとできるんだよ!



葉っぱがズレないように、テープで留めるといいよ!

年中児「作り方が、写真を見ただけでは、わからなかったけど、年長さんが教えてくれたから、遊び方がわかって嬉しい! やって見たら楽しかった!」

☆活動するための準備が自分たちでできた喜びが味わえるような言葉をかけた。

☆自然物を遊びに取り入れようと、園庭の様々な場所から自然物を探している姿をとらえ発見や気づきに共感し合った。

◎イメージしたものが完成した体験を通して自信や、やり遂げた姿につなげたいな。

☆子供たちのアイデアに感心したり、時には失敗して残念がったり、諦めたりする姿(年中児)を励まし、意欲が高まるようなアドバイスをしていった。



☆作りたい意欲が減退しないようにタイミングを見て、言葉をかけたりし、完成した際の自信につながるようにした。

☆完成した製作物は、皆が見れるように掲示し、自信が高まるような言葉をかけたり、友達のよさに気づけるようにした。

□自然物製作と自然物ままごとが干渉しないように、使うテーブルに違いを持たせた。

◎2 つの遊びが干渉することで生まれる遊びや、学びがあったのではないかな。

◎教師の意図が優先した再構成であった。子供たちは純粋な気持ちで自然物製作と自然物ままごとを楽しく融合させてみたかったのかもしれない。幼児理解を行なったうえで、その様子をもう少し見守ってもよかったのかな。

◎年中児も楽しめるようにと、年長児としての優しさある考えを出してくれたんだな。

◎年長児として、年中児への関わり方をこれからも身に付けてほしいな。

教師「年長の〇〇さん、いろいろなことを知っていたね！年長さんに遊び方を教えてもらおうと、いろいろな遊び方がわかるから、楽しいね！また、年長さんに聞いてみるといいね！」

教師「〇〇さんの考えた遊び方を年中さんに教えている姿、かっこよかったよ！優しい〇〇さんから教えてもらった年中さん、遊び方がわかって喜んでいたね！〇〇さんの優しい教え方で、また、困っている年中さんがいたら、〇〇さんが教えてあげてね！」

年長児「年中さんに説明するの、苦手な時もあるけど、困っている年中さんがいたら〇〇の遊び方をまた教えてみる！」

と、少し照れくさそうにしながらも、年中児に頼られる喜びを感じているようだった。

試行錯誤する姿



昨日は木の枝を使って、重そうだったから、今日はストローを使ってみよう！ストローが軽いからね！

昨日より軽いから、飛びそうだ！

H児「昨日は、木の枝で風を作ったけど、今日は、枝よりも軽いストローで風を作ったら、よく飛びました！」

と、振り返ったH児。

教師「風は、何で作りましたか？」「なぜ、ストローを使おうと思いましたか？」「ストローで作った風は、どんなふうには飛びましたか？」と教師は、H児の思いや考えを引き出すような質問をしながら振り返った。振り返り聞き、興味を持った子が増え、翌日以降、風づくりをして、完成した風で遊ぶ姿が数人見られた。また、H児が友達に素材の場所や作り方を友達に教える姿も見られた。

——【見通しを持って主体的に遊ぶ姿】——

S児「〇〇さんが、作っていたもの、今日、作ってみたいな！」
「作り方を、教えてほしいな！葉っぱはどこから集めたの？」

教師「昨日、〇〇さんが話していた遊び方を聞いて、やってみたいと思ったんだ

☆年中児へは、年長児から教わったことで遊び方が広がった喜びを共感した。

☆年長児へは、年長児として年中児に優しさある関わりをしていたことを褒め、年長児としてできる喜びや自覚が持てるようにした。

○紙テープの性質を知り、紙テープで風をとらえた遊びにも興味を持っているな。

○風遊びに必要な素材を自分たちで準備し、遊び方を考えるなど、自立心が育まれている姿かな。

◎口数の少ないH児が、自分の思いや考えを友達と伝え合い、アイデアを生み出してほしいな！

☆振り返りの場を設け、本児の遊びを紹介して、友達とのつながりが生まれるようにした。

☆H児の思いや考えを認めたり、H児のよさを感じられるようにした。また、質問するなどしてH児の考えを他の子供たちと共有できるようにした。

○昨日まで関心がなかった子が、興味を持って楽しんでいるな。

○この自然物遊びコーナーの存在を、友達との関わりの中で知ったのだろうな。

ね！」

「お友達の話も、しっかり聞いて、やってみよう遊びが見つかること、いいことだね！」

と、遊びに向かう姿や、友達の話を聞いていた姿を認めた。

——【身の回りのことを進んで行う姿】——

ある日、コーナーから教師が離れていた時に、片付けの時間になった。周囲で活動していた友達が、片付けをし始めていることに気づいたM児。

M児「このテーブルを片付ける場所、知ってるよ！」

「自分が遊んだものだから、自分で片付けるね！」

と、周りの状況を知り、進んで片付けに取り組んでいた。

教師「〇〇さんって、片付けの仕方をよく知っている片付け名人だね！ありがとう！先生が、いなくても片付けていたから、びっくりしたよ！すごいね！」

と、進んで片付けを行っていた姿を褒め、完成したものについても、話を聞いて余韻を楽しみながら、学級へ戻れるようにした。

○これまで自然物遊びコーナーで遊んでいた子を取り上げた学級での振り返りが響いたのだろうな。



☆片付けを進んで行なっている姿を大いに褒め、明日の遊びに期待が持てるような言葉をかけた。



○使ったものが元の場所に片付けやすいように教材名の表示をしたり、満足した遊びができたりしたことで、進んで片付ける姿につながったのだろう。

② 成果

- ・子供たちの発達や興味・関心に基づいた環境の構成と援助をしたことで、その遊びを通して、その子のよさが発揮でき、自信につながった。
- ・振り返りの中で、発見したこと、考えたこと、感じたことなどを友達と伝え合うことで、自分のよさや友達のよさを知ったり、他児は友達の遊びに興味や関心を持ったり、主体的に遊ぶようになった。
- ・教材、教具を子供たちが使いやすく、片付けしやすいような環境にしたことで、自分たちで準備する姿や、進んで片付けをする姿につながった。
- ・年長児、年中児も一緒に同じ場で遊びを進めることで、年長児が年中児を思いやる姿が見られた。
- ・年中児は、作りたいものや、わからないことを年長児へ親しみを持って聞く姿が見られた。

③ 今後の取り組み

- ・遊びが楽しくなるように、友達と一緒に考えたり工夫したりできる環境構成と援助の工夫を行っていく。
- ・子供の活動の場面に応じて、友達との関わりや困り感の解決などの援助のタイミングを工夫していく。
- ・できるようになったことに自信を持ち、更に難しいことにも挑戦したくなるような環境構成や援助の工夫を行っていく。
- ・互いの考えを認め合える支持的風土のある学級経営に努める。

事例（7）

「互いに考え工夫して遊ぼう！」

～友達と一緒にルールのある遊びを通して～

① 前日までの幼児の姿（5歳児11月～12月）

ドッジボールやサッカーを友達と一緒に楽しむ姿が見られ、基本的なルールが分かり繰り返し楽しむ姿が見られる。その中で、遊びがより楽しくなるように遊び方やルールを考え確かめたり、互いの考えを認め合ったりしながら遊びを進めている。

活動の流れ	○教師の読み取り ◎教師の願い □環境構成 ☆教師の援助
【11月】《園庭サッカー》 子供「一緒にサッカーしよう」 子供「チームに分かれよう！」 「赤対青な」 教師「試合するのかな？」 A児「そうだよ。チームに分かれてから」 教師「園庭でドッジボールもやりたいって言うお友達がいるんだけど、どこ使おうか？一緒に考えよう」 B児「じゃあ、ドッジボールする人も一緒に考えよう」 教師「そうだね、みんなで園庭の使い方考えたら楽しく遊べそうだね」 A児「俺たちこっち側を使いたいから、ドッジボールは向こう側でいい？」 C児「いいよ～」 教師「今、決まったこと他の遊びをしている子や後から遊びに入りたい子にわかるような方法ないかな？」 D児「園庭の絵描いてから、書いておけばいいんじゃない？」 教師「いい考えだね。誰がみても分かりやすいかも。先生作ってみるね」 教師は他の職員ともこの事柄を共有し、園全体で集会をもち自分たちで遊びの場や使い方を考えられるよう、共通理解した。 —————翌日からの遊び————— 互いに誘い合い、遊び出す前に場の確認をしている。その後コートのライン引きや、チーム分け、作戦会議等、自分たちで遊びを進めている。 しかし、試合が途中で中断する場面が度々	○友達と一緒にルールのある遊びを繰り返し楽しみ充実感を味わっているな。 ◎遊びのルールだけでなく、遊び方や場の使い方も考えられるようになってほしいな。 ☆場の使い方や遊び方など、子供たち自身必要性が感じられるよう一緒に考えていく。 □複数の遊びが同時に展開している際は、自分たちで遊びの場や使い方を考えて遊びだせるよう、ホワイトボード等視覚的教材を準備する。 【遊び相談マップ】 □自分たちですぐに遊び始めたり進めたりできるよう、ボールやラインカーは休憩テントに置く。また、遊びに必要な用具を子供たち自身で出し入れできるように、一緒に整えていく。

見られた。

A 児「もう・・・試合が続かない」

教師は A 児のつぶやきを拾い、困り感を他児へ共有した。

教師「A さん、試合が続かないって困っているけど・・・何か困っている？」

A 児「チームに分かれても勝手に抜けたり、違うチームに行ってから人数が合わない」

教師「自分がこのチームって分からない人もいるのかな？」

B 児「赤と青に分かれているんだけど・・・」

C 児「だってどこが青か赤か分からないのに」

教師「自分のチームが分かりにくいんだね」

B 児「D 児はサッカーのことよく知っているからわかるかも・・・」

教師「そうだね、他の友達に何か良い考えがないか聞いてみよう」

—————教室での振り返り—————

教師がサッカーでの困り感を伝えると、

子供「帽子の色変えたら？」

「そしたら赤と白になるよ」

教師「ABC 児が D 児はサッカーのことよく知っているから何かわかりそうって言っていたけど、どう？」

D 児「洋服作れば？お兄ちゃんのサッカーの試合の時ビブス着けているよ」

子供「見たことある～。赤対青っていつもいっているから、赤色と青色作ったら？」

教師「ビブスを作るってことね。そしたらすぐ自分のチームと相手のチームがどれかわかるね。」

A B C 児「そう。試合のチームにしたい」「D 児の考えで出来そう」



○自分達の遊びが進められるように、場の使い方や遊び方の必要性を感じているな。

☆A 児の困り感を拾い、気持ちに寄り添う。

◎A 児の気づきを他児と共有し、困ったことを友達と解決していけるといいな。

◎友達と互いの思いや考えを出し合って遊びを進めていく楽しさを感じられるといいな。

☆学級全体で共有するよい機会だと捉え、話し合いの機会を設ける。

☆子供たちの発想を認めたり、周囲に知らせたりすることで、友達の良い考えに気付いたり、新たな考えを取り入れたりしながら遊びが進められるようにする。

○自分の考えを相手にわかるように伝えたり、友達の考えを聞いたりすることができているな。

☆互いにイメージの共有ができ、同じ目的に向かって遊びが進められるよう言葉を引き出す。

A児「でも、ビブスってどんなして作るの？」
子供「カラーポリ袋で作ったらいんじゃない？」

子供「作り方知っている～。教えるよ」
B児「じゃあ、明日作ってから遊ぼう」
と、考えを出し合い解決策を見つけた。

-----翌日-----

昨日の振り返りから、ビブス作りが始まる。

「どんなしてやるの?」「抑えておくよ」と分からないことは友達に聞く等、自分たちで進めている。

「背番号も書こう」

「キーパーは黄色にしない?」

「いい考えじゃん。」

「じゃあ、〇〇と〇〇は字が書けるから数字書く人。〇〇は作るの上手だからカラーポリ袋切る人にしよう」と互いの良さをいかして役割を分担し、仕上げることができた。その後、出来上がった手作りビブスを着てサッカーを楽しんだ。



-----翌日からの遊び-----

ビブスを着けたことにより、チームが分かりやすくなってより遊びが盛り上がり継続している。また、「今日は12対5で赤の勝ち」と点数にもこだわって遊んでいる。
F児はサッカーをするのは苦手だけど、友達楽しそうな姿を見て点数を数える係をしている。

○これまでの遊びの経験が生かされるな。

□子供たちから出たビブス作りに必要な材料や道具を用意する。

(カラーポリ袋・セロハンテープ・マジック等)

【ビブス作りの様子】



○互いの良さを認め合いながらビブス作りを進めているな。

○試合のイメージが共有されてきている。



F児「先生、今10対8。あれっ？11だったかな？分からなくなってきた」

教師「数えて覚えておくのって大変だよな。」

10以上の数字になると指が使えず数えにくいのと、忘れたら困ることを他児に伝え、すぐに解決に向けた話し合いが始まった。



教師が少しヒントを出すと、「得点板作ろう」「紙に書こう」「俺は数字書く」「何点まで数字書く？」「10は？」「10以上点取るからもっと多くがいいでしょ」「最高何点だった？」「15点！だから15まで書こう」と互いの思いや考えを出し合いながら解決しようとする姿があった。

【得点板作りの様子】



教師が自分たちで遊びを進めている姿を学級で紹介すると、「それって得点係って言うんだよ」「そういえばテレビでサッカーの試合見たとき審判もいたよ」「得点係や審判だったら〇〇もできそう」とサッカーに関心が薄かった子も興味を示し、その後活動に参加するようになった。

【審判役も】



□遊びが継続できるように、サッカーのビブスも自分たちで取り出しやすいようカゴに入れる。

☆F児の困り感を共有し、みんなで考え合い、新たな発想を生み出したり、工夫したりするきっかけとなるよう、問いかける。

☆展開を側で見守り、共感したり子供たちの工夫を認める。

☆教師は見守りながら、同じ目的に向かって、自分なりの考えを伝えたり、友達の考えを聞いたりする過程を大切にする。

☆必要に応じて学級全体で話し合う機会をもつ。

□子供たちから出た得点板作りや審判に必要な材料や道具を用意する。

(画用紙・穴あけパンチ・モール
ホワイトボードなど)

○友達の考えを認め、取り入れることで遊びがより楽しくなっていることを感じているな。



—————その後————— 審判、選手と分かれ自分達で遊びを進めている。「もっとチーム作って試合がしたい」と更に目的をもってサッカーに向かう姿が見られる等、遊びに深まりが見られるようになった。	○自分達で困り感を話し合って解決してきた体験や解決しながら遊びを進める充実感や達成感を味わってきたので、より一層サッカーの楽しさを感じているだろうな。
--	--

② 成果

- ・どの幼児もわかりやすく場の使い方を視覚的に掲示（遊び相談ボード）するなど工夫したことで、遊びに必要な場の使い方や遊び方を考えることができた。
- ・教師も一緒に考えたり、イメージが膨らむように環境を整えたりしたことで、友達と同じ目的に向かって自分たちで遊びを進めることができるようになった。
- ・主体的な遊びを楽しみ継続する中で、友達と意見交換しながら、遊び方を工夫する姿が見られるようになった。
- ・困り感に応じてその都度話し合う場を設けたことで、解決するための方法を友達と考えることができた。話し合いでは、思いや考えを出し合うことで、様々な考え方に触れたり、互いの良さに気付いたり、認め合いながら遊びを進めていくことができるようになった。

③ 今後の取り組み

- ・今後も、共通の目的に向かって友達と一緒に相談したり、工夫したり出来るような環境構成と援助の工夫をしていく。
- ・ウェビングマップやドキュメンテーションを活用し、子供たち同士で遊びが進められるよう援助していく。
- ・子供たちの中には気持ちを上手く伝えられず困っていたり、相手にわかるように話すのは難しい子もいる。一人一人に応じた言葉かけや友達と繋ぐ援助を引き続き行う。
- ・「難しいと思ったことも諦めずにやり遂げたことによって味わう満足感や達成感」を、育む体験が積み重ねられるよう、幼児の興味関心や発達段階に応じた意図的計画的な環境構成や援助を更に工夫する。

4 研究の成果と課題及び今後の取組

(1) 研究の成果

- ・全職員で研究テーマを捉えたり、週・日案の見直し等を行ったことで、様々な視点から幼児の姿を捉え共有することができ、幼児理解が深まった。幼児理解が深まったことで、発達段階に応じた援助や環境構成を行うことができ自身の保育改善にもつながった。
- ・自立心を育むための遊びの場の環境構成を副担任も交えたグループを分け、園全体の環境を整えた。それぞれのグループが担当することで遊びに関わる幼児の育ちや学びの姿を継続して捉えることができ、その後の遊びの展開や環境の再構成など見通しをもった保育を実践することができた。担当の職員に継続的に見守られる中で、子供たちは何事にも安心して意欲的に取り組む、試行錯誤する、最後まで粘り強く取り組むなど自立心の育ちも見られた。
- ・公開保育、保育研究会を通して、保育の方法についての意見交換を行うことで、援助の手立てを見直しする等、自身の保育の改善ができ保育の質の向上につながった。
- ・発達段階や時期に応じた遊びを読み取り、主体的に遊びに取り組むよう環境構成や援助の工夫を行ってきたことで、様々な活動を楽しみながら、挑戦する気持ちや、最後までやり遂げる姿につながった。また、様々な遊びの場で、年長児と年中児が関わる姿も見られるようになった。

(2) 課題及び今後の取組

- ・職員の保育経験年数に差がある為、講師を招聘しての理論研修やフォトカンファレンスやビデオカンファレンス等実践形式の研修など保育力を高める研修方法に工夫・充実を図っていく。また、より多角的な視点で幼児の実態把握や援助の方法、環境構成等について探り更なる保育の質の向上に努める。
- ・幼児一人一人が主体的に環境に関わり活動を楽しむ中で、難しいと思ったことも諦めずにやり遂げることによって味わう満足感や達成感を育む体験が積み重ねられるよう、幼児の興味・関心や発達段階に応じた環境構成や援助の更なる工夫を探っていく。

園庭環境図（5月～7月）

○幼児の姿(年長) ●幼児の姿(年中) ★環境構成 ☆教師の援助 □安全指導

虫探し

- カバマダラ、カマキリ、バッタ、セミ等の虫探しに夢中になっている。捕まえる為に虫取り網や虫かごを作る子もいる。
- 虫探しに夢中で、何匹も捕まえることに喜びを感じている。一方で捕まえた虫には関心が薄くなる。
- ★疑問に思ったことを調べたり、虫を観察したりして、関心をもって関われるよう、図鑑や虫メガネを目につきやすい場に用意する。
- ☆子供の気付きや驚きを受け止め、より探求心が深まる言葉かけや援助をする。

砂場・黒砂遊び

○「大きな川を作ろう」「水を汲んできて」等、友達と思いや考えを伝え合って遊びを進めている。

●砂で作ったアイスクリームやケーキ等に落ち葉や木の実で飾り付けをして、友達と一緒にごっこ遊びを楽しんでいる。

★イメージに合うものを選んだり、進んで片付けが行ったりできるよう道具を種類ごとに分けて掲示する。

☆友達と思いや考えを伝え合ったり、力を合わせたりする姿を大切に、作っていく過程で困り感が出た時には自分たちで解決していけるようにヒントを投げかけたり、一緒に考えたりしていく。

☆教師も一緒に会話を楽しんだり、子供たちの発想を認めたりすることで、友達の面白い発想に気付いたり、新たな考えを取り入れたりしながら遊びが進められるようにする。

シャボン玉遊び

○「よー飛ぶシャボン玉を作りたい!!」
自分なりに試したり気づいたことを友達に伝えたりしながら遊びを進めている。

●年長児が遊ぶ姿を真似し、教師や友達と一緒に石鹸を削ったり、水の感触を楽しんだりしている。

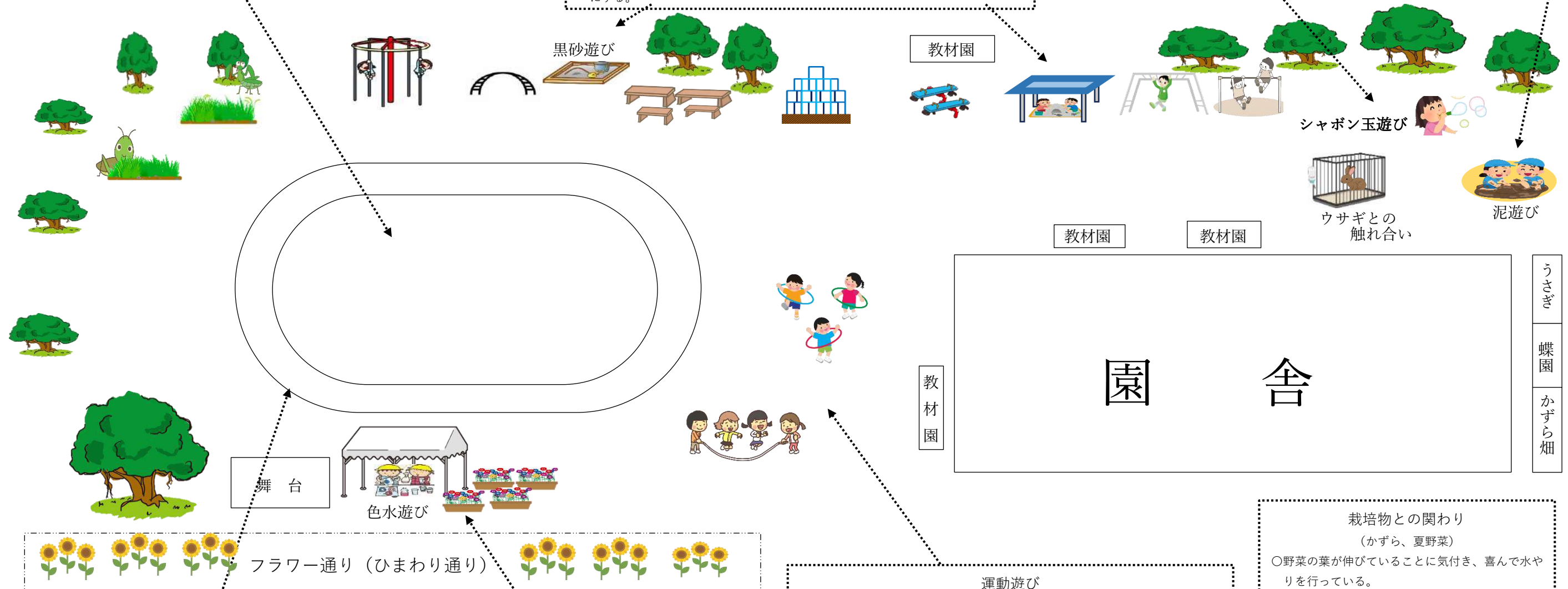
☆初期や計量カップ、スプーンなど、出し入れしやすいように表示をつけておく。

☆上手くできず困っている時には、一緒に考えたり、友達にやり方を聞いたりして自分なりに試すことができるようになる。

☆できた喜びを一緒に共感しながら、気づきや発見を周りの子に伝えていく。

泥遊び

- ダイナミックに遊びながら泥の性質の不思議さや面白さを感じている。
- 泥の感触を楽しみ、気付いたことや面白さを教師や友達に伝えている。
- ☆試行錯誤を繰り返す中での気付きや工夫を認め、周りの子にも知らせることで友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じられるようにする。
- ☆楽しさや面白さに共感しながら、泥の性質に気付くような言葉をかける。
- ダイナミックな遊びも十分に楽しめるよう、他の遊びと動線が重ならないようにする。



鬼ごっこ

○●自分たちでルールを決めて、遊びを進めている。思いの食い違いからトラブルも見られるが、自分たちで解決して遊びを再開している。

☆子供同士で遊びを進めている姿を見守り、必要に応じて援助する。

□遊びの動線が重ならないよう配慮する。

色水遊び

○「〇〇色を作りたい」と必要な花を探し、色水づくりを楽しんでいる。

また、水の量を調整したり、作った色を混ぜたりする等、試したり工夫したりしながら楽しんでいる。

●年長児の姿を見て、教師や友達を誘いながら一緒に花を探したり、様々な道具を使ったりして楽しんでいる。

★たくさん色があることに気づけるよう、絵の具で作った色水やカラーチャートを用意した。

☆一人一人の工夫を認めたり、周りの子にも知らせたりすることで、友達とのつながりが広がるよう言葉かけをする。

運動遊び

(なわとび、フープ等)

- 経験したことがある運動遊びに意欲的に取り組んでいる。用具の貸し借りでトラブルになることもある。
- 固定遊具で気の合う友達と遊んでいる。
- ★興味を持った運動遊びにすぐに取り組めるよう、用具を整理しておく。
- ★終わった後は進んで片付けができるよう表示しておく。
- ☆自分なりに挑戦する姿を具体的な言葉で認める。
- ☆教師も遊びの仲間に入り、一人一人の思いや考えを受け止めることで友達の思いにも気付き、一緒に遊ぶ楽しさを味わえるようにする。
- 他の運動遊びと動線が重ならないよう安全に取り組める場を確保する。また、安全に遊べるよう子供たちと場の使い方や約束を確認する。

栽培物との関わり
(かずら、夏野菜)

- 野菜の葉が伸びていることに気付き、喜んで水やりを行っている。
- 葉の違いに気付いたり、生長の変化を面白がったりする等、友達と共有している。
- 栽培物の生長に気付き、喜んで世話をしている。
- ☆子供の気付きや不思議さに共感したり、関心もてるように学級で話題に取り上げたりする。
- ☆教師も一緒に世話をし、栽培物の変化に気付く子供の言葉を丁寧に受け止めたり、生長の過程を予想したりすることで、楽しみに世話を続けられるようにする。
- ☆栽培物によって世話の仕方に違いがあることに気付けるようにする。

○ 幼 児 の 姿	○友達と一緒に興味がある運動遊びに挑戦する姿が見られる。 また、年長児に混ざってドッジボールや鬼ごっこ等、ルールのある遊びを楽しむ子もいる。 ○自分の思いを友達へ伝えようとするが、うまく思いが伝わらず、困り感を感じている。教師が仲立ちすることで、友達の思いに気付くことが増えてきている。 ○いも掘りやいもパーティーを体験し、大きさや形の違いに気付く、他の栽培物にも関心をもつ姿がある。				◎ 週 の ね ら い	◎様々な運動遊びに繰り返し挑戦する楽しさや、ルールのある遊びに取り組む楽しさを味わう。 <			
-----------	---	--	--	--	-------------	--	--	--	--

基本的な生活習慣		安全指導		○絵本△紙芝居♪歌		給食指導		個別配慮		
・8:15 までに登園する。 ・元気よく挨拶や返事をする。 ・所持品の始末をする。 ・持ち物を確認し、忘れ物がないようにする。 ・手を洗う必要性に気付き、自分でしようとする。 手を洗った後は、ハンカチで拭く。 ・こまめな水分補給と休息をとる。 ・天気や気温に応じた衣服の調整を行う。(肌着を着ける。) ・ジャンパーは、畳んでかばんに入れる。		・ホールや砂場側の庭横は歩く。 ・使った用具や道具は元の場所に返す。 ・必要に応じて場や道具、用具の安全な使い方を一緒に考えたり、再確認したりする。 ・周りを見て運動遊びを始める。		○ごんごろじゃがいも ○おちばいちば △七五三おめでとう ♪どんぐりころころ ♪やきいもグーチャーパー ♪動物園へ行こうよ		・食事のマナーを守り、みんなと楽しく食事をする。 ・食器やお箸の正しい持ち方を繰り返し伝える。 ・食べこぼした際は、ティッシュで拾う。 ・テーブルと椅子の準備や片付けを自ら行う。		(A さん)・本児が自分の思いを友達へ伝えられるよう、見守りながら必要に応じて仲立ちをし、友達と楽しく遊ぶことができるようにする。また、活動の切り替えがスムーズに行えるように、事前に活動の切り替わる時間を全体へ伝えた後に、本児へもう一度伝える。 (B さん)・本児が友達と関わろうとする中で、教師が言葉やジェスチャーを汲み取りながら友達へ伝え、安心して友達と過ごせるようにする。給食時には、メニューを伝えたり、匂いや美味しさを伝えてみたりしながら、少しでも興味をもてるようにする。 (C さん)・本児が友達とつながるように、教師が丁寧にに関わりながら、同じ場で遊んでいる子供たちとつないでいく。		
次週の予定				落ち葉拾い	倉庫前掃除	落ち葉拾い	ウサギ小屋	玄関前水やり	フラワー通り	
2 0 日(月) ・遠足下見				1 組	2 組	3 組	4 組	5 組	きりん	ぱんだ
2 1 日(火) ・ありがとう集会・園内研										
2 2 日(水) ・体育遊び(5)45123										
2 3 日(木) ・勤労感謝の日(公休日)										
2 4 日(金) ・秋の遠足(沖縄こどもの国)				第2コート 運動遊び	外の舞台 砂場	第1コート 小学校側広場	サポーター 木登りと周辺	秋の自然コーナー 竹馬と周辺	第1コート 竹馬と周辺	外の舞台 うんてい 鉄棒周辺

幼児の姿	○友達と一緒に興味がある運動遊びに挑戦する姿が見られる。また、年長児に混ざってドッジボールや鬼ごっこ等、ルールのある遊びを楽しむ子もいる。 ○自分の思いを友達へ伝えようとするが、うまく思いが伝わらず、困り感を感じている。教師が仲立ちすることで、友達の思いに気付くことが増えてきている。		ねらい	◎様々な運動遊びに繰り返し挑戦したり、ルールのある遊びを楽しんだりする。 ◎自分の思いを伝えたり、相手の思いに気付いたりしながら、友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わう。	内容	・自分なりの目標に向かって、ホッピングやフープ、うんてい等の運動遊びに繰り返し挑戦する。 ・友達や年長児と一緒にリレーやドッチボール等、ルールのある遊びをやってみようとする。 ・自分の思いや考えを言葉で伝えながら遊ぶ。 ・友達の思いや考えを聞きながら遊ぶ。
時間	幼児の活動	☆教師の援助	○予想される幼児の姿 ★環境構成 ☆教師の援助、配慮 □安全面の配慮			
7：30	○順次登園	☆一人一人と笑顔で挨拶を交わし、個々の挨拶や表情から今日の心身の健康状態を把握する。 ☆自ら取り組む姿を認めたり、忘れている子には気付けるよう言葉をかけたりする等、進んで行えるように励ましていく。	□戸外では幼児の行動範囲が広がるので、安全面に配慮しながら、教師間で連携を図る。（チーム保育） ★前日までの遊びが引き続き楽しめるよう、遊具や用具などを幼児の目につきやすい場に配置する。 また、元の場所に戻しやすいよう表示をする。			
8：15	○好きな遊びを楽しむ 室内 お化け屋敷、お面屋さん、製作遊び、折り紙、粘土、ブロック、など ○片付け ○室内遊びの振り返り	☆右記参照 ☆遊びの中で楽しかったことや工夫したこと、新たに気づいたこと等、クラスの皆に伝え合える場を設け、互いの遊びや発想を認め合えるようにしていく。 ☆明日も遊びが引き続き楽しめるように、「どんな風に置いておきたいのか」「使いやすい場所はどこか」等、子ども達と話し合いながら片付け方を工夫する。	小さい秋みつけた(室内：秋コーナー) ○風の心地よさや、「雲がサメの形をしているよ！」等雲の形の変化に気付いている子や、葉の色の変化に気付き、教師に伝えにくる子もいる。 ★秋の自然物や絵本を掲示し、興味をもてるようにする。 ★子供たちが拾ってきた落ち葉や木の実等を飾る場を設ける。 ☆子供の気付きに耳を傾け共感し、自然の変化に気付けるような言葉かけを行う。 ☆子供たちと一緒に自然物を使い、遊びに取り入れてみたり、作ったものを飾ったりする。			
9：50	○当番活動 (栽培物の水やり)	☆人参、玉ねぎなどの生長に気付く友達と伝え合ったり姿を認めたり、新たな気付きがある時は共感し他児に伝えていく。	＜室内の環境構成＞ 製作・折り紙 お化け屋敷 お面屋さん 粘土 (キーホルダー作り) ブロック 秋			
10：15	○好きな遊びを楽しむ 戸外 運動遊び、ダンス、ドッジボール、おにごっこ、虫探し、木登り、砂遊び、など ○片付け・着替え ○絵本貸し出し	☆別紙戸外環境図参照 ☆手洗いや着替えなど、丁寧にに取り組む姿を認め、習慣化できるよう見守っていく。 ☆旬の食べ物や栄養に興味をもち、味わって食べられるような言葉をかける。 ☆一緒に掃除をしながらきれいになっていく過程を認める。また、用具の使い方を丁寧に知らせ、身に付いているか再確認していく。				
11：15	○給食準備・給食 ○歯磨き・掃除	☆一日の活動を一緒に振り返り、充実感や満足感を味わえるよう認めていく。また、明日の予定を伝えることで見通しをもったり、明日への期待につなげたりする。				
12：00	○学級でのひととき ○帰りの会	☆今日の活動や子供の様子・頑張り等を保護者と共有する。				
13：00	○降園		お化け屋敷ごっこ ○年長児がお化け屋敷を作っているのを見て、「お化け屋敷を作りたい！」と話し、自分なりのイメージを表現しながら、友達と黒いビニール袋や素材等を使いお化け屋敷を作っている。 ○友達と作っていく中で、「もっと怖くしたい」や「広くしたい」等、自分の思いを伝えているがうまく伝わらず困り感を感じている子もいる。 ★表現できるよう素材を用意し、取り出しやすいようにしておく。また、一緒に必要なものを考えて場を整える。 ☆子供たちで遊ぶ様子を見守りながら、必要に応じて話し合いの場を設ける。また、一人一人の思いを受け止めながら、互いの思いを丁寧に聞き出し分かりやすく伝えることで、友達の思いに気付けるようにする。			
評価の視点	振り返り	・ねらいに応じた、環境構成や援助ができていたか。	※雨天時は、教室や遊戯室にて好きな遊び。 【遊戯室】遊びの動線に配慮しドッジボール、リズム、縄跳び、フープ、竹馬等			

基本的な生活習慣		安全指導		○絵本△紙芝居♪歌		給食指導			個別配慮	
・ 8：15までに登園する。 ・ 場に応じた挨拶をする。 ・ 使ったものをきまった場所に片付ける。 ・ 持ち物を確認し、忘れ物がないようにする。 ・ こまめな水分補給と休憩をとる。 ・ 天気や気温に応じた衣服の調整を行う。 （肌着をつける） ・ ジャンパーは畳んでかばんに入れる。		・ ホールや砂場側の園庭は歩く。 ・ 使った用具、道具は元の場所に返す。 ・ 必要に応じて、場や道具、用具の安全な使い方を一緒に考え、再確認したりする。 ・ 周りを見て運動遊びを始める。		○ごんごろじゃがいも ○おちばいちば △七五三おめでとう ♪どんぐりころころ ♪やきいもグーチーパー ♪動物園へ行こうよ		・ 食事のマナーを守り、みんなと楽しく食事をする。 ・ 苦手なものも少しは食べてみようとする。 ・ 牛乳パックを自分で開く。 ・ 当番や係の仕事を友達と協力して行う。 【給食放送5組】			A さん・・・友達と関わって遊びを進めていくのが苦手。本児の得意な製作遊びを通して、友達と関わっていけるよう本児のよさを周囲に伝え、つなげていく。 B さん・・・遊びだと約束事を忘れたり、友達との関わりの中で口調が強くなったりする。必要に応じて約束の再確認や、相手の気持ちを一緒に聞く場をもち、安全な遊び方や友達の気持ちに気付けるよう言葉をかける。	
次週の予定				落ち葉拾い	倉庫前掃除	落ち葉拾い	ウサギ小屋	玄関前水やり	フラワー通り	
20 日(月) ・遠足下見										
21 日(火) ・ありがとう集会 ・園内研				1 組	2 組	3 組	4 組	5 組	きりん	ばんだ
22 日(水) ・体育遊び（年長）45123										
23 日(木) ・勤労感謝の日（公休日）				第2コート	外舞台	第1コート	サポーター	自然コーナー	第1コート	外舞台
24 日(金) ・秋の遠足（沖縄こどもの国）				運動あそび	砂場	小学校側広場	木登りと周辺	竹馬と周辺	竹馬と周辺	雲梯・鉄棒と周辺

幼児の姿	○「逆上がりができるようになりたい」と鉄棒の目標を立て繰り返し挑戦したり、年中児と一緒にドッジボールやサッカー、ダンスを楽しむ子もいる。 ○ドッジボールやサッカーなどルールのあるでは、「ゴールはマーカーを置いて作ろう」「みんなにボールパスしよう」等と、遊び方やルールを考えたり工夫したりし、互いに伝え合って確認しながら進めている。 ○室内では、〇〇屋さんのイメージに向かって友達と思いや考えを伝え合ったり、「お店の看板つくったら良いじゃない？」等と、互いのよいアイデアを取り入れたりしながら遊びを進めている。	ねらい	◎様々な運動遊びやルールのある遊びを繰り返し楽しむ。 ◎友達と同じ目的に向かって、思いや考えを伝え合いながら遊ぶ楽しさを味わう。	内容	・自分なりの目標に向かって、諦めずにやり遂げようとする。 ・遊び方やルールを考えたり伝え合ったり確かめたりしながら自分たちで遊びを進める。 ・互いの考えを認め合ったり、取り入れたりしながら、遊びを進める。
時間	幼児の活動	☆教師の援助	○予想される幼児の姿 ★環境構成 ☆教師の援助、配慮 □安全面の配慮		
7：30	○順次登園 ○所持品の始末 ○当番活動（うさぎの世話）	☆一人一人と笑顔で挨拶を交わし、挨拶や表情から今日の心身の健康状態を把握する。 ☆親しみをもって世話をする中で、うさぎの気持ちや過ごしやすい環境にも目を向けていけるよう、言葉をかける。	□戸外では幼児の行動範囲が広がるので、安全面に配慮しながら、教師間で連携を図る。（チーム保育） ★前日までの遊びが引き続き楽しめるよう、遊具や用具などを幼児の目につきやすい場に配置する。 また、元の場所に戻しやすいよう表示をする。 ペープサート作り ○作ったペープサートにあうお話を考えている。 ○芋パーティーを経験し、芋もここで作ってペープサート見ながら食べたいと話している。 ★イメージに合わせた材料や用具を子供と相談しながら準備していく。【ペープサートのイメージ：紙・割りばし・段ボール箱等】【食べ物のイメージ：紙粘土・絵具等】 ★作りかけの物は、また続きをしたくなるような置き方を工夫する。 ☆友達同士でやりとりしながら遊びを進める姿を見守り、必要に応じて教師も一緒に考えたり、互いの思いや考えに気付けるきっかけを作る。また、多様な考えに気付き、取り入れたりしながら遊びを進めていく楽しさが感じられるようにする。 製作 ○友達と一緒にクレーンゲームやビー玉転がしを作っている。 ○クレーンゲームの上の方を丸くしたいと、モールで形を作る等様々な素材を使って工夫している。 ★友達と一緒にじっくり試したり工夫したりできるよう、スペースを広く設ける。 ★イメージに合わせた材料や用具を子供と相談しながら準備していく。【モール・筒・棒・ビニール袋等】 ☆子供たちの発想や考え工夫を認め、周りの子に知らせたり、つなげたりすることで、互いの考えを認め合い、新たな考えを取り入れたりしながら遊びを進めていけるようにする。 積み木 ○1学期経験したピタゴラススイッチを再現しようとしている。 ○メンバーが変わると遊びが停滞することもある。 ★様々な大きさや形の積み木を用意し、試したり工夫したりできるようにする。 ★遊びが盛り上がったら、ホールに移動し、より試したり工夫したりできるようにする。（3組とつながるかな・・・） ☆遊びが停滞する時は、隣のクラスの遊びの様子を伝えたり見に行ったりし、自分達の遊びに取り入れ、再度自分達で遊びを進めていけるようにする。 おしゃれ屋さん ○「のれんつけたらお店みたいだよ」との友達の考えを聞き「作ってみよう」と自分達の遊びに取り入れようとしている。 ○「男の子に似合うものも作ろう」と、新たにお店に必要な物を考え作ろうとしている。 ★イメージにあうものを選んだり、再現していけるよう子供たちと相談し材料を準備していく。【のれん：画用紙・スズランテープ・棒等】 ★本物らしいディスプレイをし、イメージが広がっていけるようにする。 ★ビーズ等、選びやすく・取りやすいよう容器に分けていれておく。 ☆お客さんを呼ぶために必要な物や役割に気付くきっかけを投げかける。 ☆思いや考えを出し合う中で、友達の良さに気付いたり、認めたりする姿に共感し、互いの考えを認め合いながら遊びを進めていけるようにする。 ※雨天時は、教室や遊戯室にて好きな遊び。 【遊戯室】遊びの動線に配慮しドッジボール、リズム、縄跳び、フープ、竹馬等		
8：45	○好きな遊びを楽しむ 室内 おしゃれ屋さん・ゲーム作り・虫研究所・ペープサート 積み木 など	☆右記参照			
10：15	○室内遊びの振り返り ○好きな遊びを楽しむ 戸外 （別紙：戸外環境図参照） 運動遊び、ダンス、リレー、サッカー、ドッジボール、自然物遊び、虫捕り、木登り、動植物の世話など	☆遊びの中で工夫したことや困り感について共有する場を設ける。互いのアイデアを出し合うことで、新たな考えが生まれ、より工夫して遊びを進める楽しさが感じられるようにする。 ☆明日も遊びの続きが楽しめるよう、「どんな風に置いておきたいのか」「使いやすい場所はどこか」等、子ども達と話し合いながら片付け方を工夫する。			
11：30	○片付け・着替え	☆手洗いや着替えなどが習慣化できるよう、個々に応じて丁寧に関わる。			
12：15	○絵本貸し出し ○給食準備・給食	☆旬の食べ物や栄養に関心をもち、味わって食べられるような言葉をかける。 ☆進んで取り組む姿を認め、きれいになる心地よさを感ぜられるよう、言葉をかける。			
13：30	○歯磨き・掃除	☆一日の活動を振り返り、充実感や満足感が味わえるようにする。また、明日の予定を伝えることで見通しをもったり、明日への期待につなげたりする。			
14：00	○学級でのひととき ○帰りの会 ○降園	☆今日の活動や子供の様子、頑張り等を保護者と共有する。			
評価の視点 振り返り	・ねらいに応じた、環境構成や援助ができていたか。		虫研究所 ○アゲハの幼虫に名前をつけ愛着をもって関わっている。 ○かまきりの世話の仕方を調べ、エサを探したり、飼育環境を整えたりしている。 ○友達と一緒に「今日は幼虫何センチになったかな」とものさしを使って調べ記録し、紙をつなげ図鑑にしている。 ○製作で作った虫を展示会にしようとディスプレイしている。 ★虫眼鏡や必要図鑑、ものさし等を置いてすぐに調べられるよう目につきやすい場に置く。 ★飼育に必要な道具と一緒に考え整えていき、手にとりやすい場所に置いておく。 【きりふき・ティッシュ・ゴミ箱など】 ★気付いたことをすぐに記録できるように、紙や画用紙を近くに置いておく。 ☆子供の発見や驚きを受け止め、一緒に喜び合ったり、共感したりすることで興味が深まっていくようにする。 ☆命あるものとして大切に扱う気持ちがもてるよう、虫の特性にあった飼育環境や関わり方を一緒に考えていく。 ☆展示会を開くために、必要な物や役割に気付くきっかけを投げかける。		

令和5年度 研究同人

研究主任：国 吉 亜 矢（担 任）

研究副主任：山 城 若 菜（担 任）

研究副主任：新 垣 真由美（担 任）

神 里 彩 侑（担 任） 山 城 理夏子（担 任）

長 濱 和 美（担 任） 金 城 花 南（担 任）

当 間 とも子（副担任） 稲 福 未 桜（副担任）

下 地 真 緒（副担任） 崎 原 璃 麻（副担任）

神 里 有 咲（加 配） 安座間 玲 菜（加 配）

仲 村 美乃里（加 配）

根 間 まな美（事務員）

園長：濱 元 朝 純

教頭：比 嘉 真奈美